

6月14日（金曜日）

第3日目

---

令和元年6月14日（金曜日）

---

### 議事日程第3号

令和元年6月14日（金曜日）

開 議 午前10時

第1 一般質問

質 問

応 答

第2 議案等の付託

散 会

---

### 本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

1. 小棚木 政 之 君

(1) 「秋田犬の里」の今後について

- ・ 課題が散見され今後が心配されるが、どのように認識しているのか。課題解決を含め、今後何をどのように改善を図っていくのか。また、その予算規模はどのくらいを考えているのか。オープンしたばかりではあるが、改善すべきは急いで改善し、真の観光拠点化を図るべき

(2) 観光基本計画を実効性のあるものに見直しを

- ・ 平成28年に策定された「大館市観光基本計画（2016～2023）」は当初から具体性が弱い計画であったが、ここ数年の観光シーンの急激な変化に対応していないだけでなく、基本計画としての方向性、行動指針が不明瞭である。交流人口がふえるだけでは市民理解が得られないのではないかと。産業政策として明確な方向性を打ち出してほしい

(3) 熊に関する対応のあり方について

- ・ 熊対策は後手であると感じるが、対策には限界があるため現在の対応方を改める必要があるのではないかと。目撃情報通報での課題、情報発信のあり方の不十分さ、猟友会頼りの対策の限界などを鑑み、「今できること」の見直しをする必要があるのではないかと

(4) 道路維持に関する情報管理のシステム化を図ってはどうか

- ・ 道路の破損など、毎年多くの苦情や要望が市民から寄せられているが、情報の受信・整理・改修実施に多くの手間が割かれていることは想像にかたくない。そう

した一連の流れをICT化することで業務を効率化し、市民への情報の見える化を進めることができる。導入を検討してはどうか

2. 佐藤 芳忠 君

- (1) 大館駅が業務委託駅になったことをどうして議会に報告しなかったのか
- (2) 「みどりの窓口」がなくなるなど市民生活に大きな影響を与える業務委託駅への市費の投入は見直すべき

3. 斉藤 則幸 君

- (1) 市長の政治姿勢について
  - ① 示された民意について
  - ② 低過ぎる投票率について
  - ③ 今後取り組むべき政策について
- (2) SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みについて
  - ① SDGsについてどのような認識を持っているか
  - ② SDGsは近隣の市町村と連携していくことが大事ではないか
- (3) 「子どもの遊び場」の取り組みについて
- (4) 市の観光危機管理の現状について
- (5) 带状疱疹ワクチンの接種費用に市で助成できないか

4. 田村 儀光 君

- (1) 1期目の自己評価と2期目の大館のまちづくりにかける思いについて
- (2) 駅前開発と秋田犬の里について
- (3) 十ノ瀬藤の郷について
- (4) 森林環境譲与税と林業成長産業化地域創出モデル事業について
- (5) 扇田病院着服事件の進捗状況について

日程第2 議案等の付託

---

出席議員（26名）

1番	柳 館 晃 君	2番	石 垣 博 隆 君
3番	小 棚 木 政 之 君	4番	武 田 晋 君
5番	佐 藤 久 勝 君	6番	伊 藤 毅 君
7番	日 景 賢 悟 君	8番	阿 部 文 男 君
9番	藤 原 明 君	10番	田 中 耕 太 郎 君
11番	佐 々 木 公 司 君	12番	花 岡 有 一 君
13番	佐 藤 眞 平 君	14番	田 村 儀 光 君
15番	小 畑 淳 君	16番	笹 島 愛 子 君

17番	小畑新一君	18番	斉藤則幸君
19番	岩本裕司君	20番	田村秀雄君
21番	佐藤芳忠君	22番	富樫孝君
23番	明石宏康君	24番	相馬エミ子君
25番	吉原正君	26番	菅大輔君

---

欠席議員（なし）

---

説明のため出席した者

市	長	福原淳嗣君
副市	長	名村伸一君
総務部	長	北林武彦君
総務課	長	工藤仁君
財政課	長	桜庭寿志君
市民部	長	虻川正裕君
福祉部	長	安保透君
産業部	長	石田一雄君
建設部	長	齋藤和彦君
会計管理者		目時俊一君
病院事業管理者		佐々木睦男君
市立総合病院事務局長		佐藤伊久男君
消防	長	三浦勝彦君
教育	長	高橋善之君
教育次長		本多恒博君
選挙管理委員会事務局長		安達明博君
農業委員会事務局長		佐々木金義君
監査委員事務局長		笹谷能正君

---

事務局職員出席者

事務局	長	阿部稔君
次	長	小玉均君
係	長	長崎淳君
主	査	松田暁仁君
主	査	高橋琢哉君

主

查 佐 藤 淳 君

---

---

## 午前10時00分 開 議

○議長（小畑 淳君） 出席議員は定足数に達しております。

よって、これより本日の会議を開きます。

本日の議事は、日程第3号をもって進めます。

---

---

### 日程第1 一般質問

○議長（小畑 淳君） 日程第1、昨日に引き続き、一般質問を行います。

最初に、小棚木政之君の一般質問を許します。

#### 〔3番 小棚木政之君 登壇〕（拍手）

○3番（小棚木政之君） おはようございます。令和会の小棚木政之でございます。選挙後初めての一般質問でありますので、思いがあふれて言葉が過ぎるかもしれませんが、大館市の将来を思う気持ちからですので、どうか御容赦をいただきたいと思っております。私は今回の選挙戦で市内各所をめぐり、空き家や放置された廃屋などを目にして、改めて4年前に比べて人口減少などによる地域活力の低下や、さまざまな課題が進んでいることを痛感いたしました。これは、議場にいる皆様も同様ではないかと思っております。そのようなこともあり、選挙戦では終始、これからは挑戦の時代であるということを訴えてまいりました。人口構成が変わり、人口の総数が減る中でも、私たちは生活の歩みをとめるわけにはいかない。これまでと同じようなことをし、同じような状況を望んでも早晩に立ち行かなくなることから、これまでの常識では無理だと思うようなことであっても、工夫をして果敢に挑戦していくほかはないであろうということがあります。これから4項目にわたって質問いたしますが、いずれも根底に通ずるものは挑戦であります。挑戦という言葉は勇ましい響きを持ちますが、これまでと違ったことへ踏み込む勇氣が必要であり、成功する確証がなくても進まなければならないといった覚悟が必要なことでもあります。しかし、先が見通せない時代においては、従来どおりのやり方では逆に失敗を招きかねないくらい世の中が変化しているということを、私たちは強く認識しなければいけないと思っております。誰しも変化は怖いものでありますが、これまでと同じでは沈むだけであります。積極的な意欲を持って新しい時代、新しい社会を開いていこうという意識を新たにしなければならぬのであります。同じことをするにも、いやいやながらするのと、目的を持ってするのでは結果が大きく変わります。今こそみんなで鼓舞しながら前に進まなければなりません。市長の長年の友人として、福原淳嗣という人には何だかわからないけれども、人を元気にする力があると思っています。ぜひ多くの人を巻き込んで新たな時代に進んでほしいと思っております。しかし、ワンフレーズで人を元気にできるのは情報の共有があつてのことであり、幾ら平易な言葉を使ったとしても初めての人には通じません。市長は多忙でなかなか時間がとれないと思っておりますが、できるだけ議会、職員、そして市民とより多くのコミュニケーションを図り、リーダーとして

の能力を存分に発揮していただきたいと願うものであります。前置きが長くなりましたが質問に移ります。

最初は、「秋田犬の里」の今後についてであります。5月8日にグランドオープンした大館市観光交流施設秋田犬の里は、当初予定を変更して4月17日にプレオープンし、空前の超大型連休の流れをうまく捉えたこともあって、当初の大方の心配をものともせず、大変多くの来場者でにぎわいました。まずは、さまざまな課題や苦勞を乗り越えて開業にこぎつけた、企画調整課を初めとする関係各位並びに工事関係者、観光関係者など多くの皆様の御努力をねぎらいたいと思います。また、その後を引き継いだ観光課・秋田犬保存会・大館市観光協会などの観光関係の皆様も、始まったばかりで苦勞の連続であると拝察しております。本当に多くの方の努力によって、待望の観光の拠点ができることを改めて感謝して喜びたいと思います。裏方と言っては失礼かもしれませんが、この施設に関係された皆さんがそれぞれ思い描いた理想と違ってなかなか思うようにいかず、砂をかむような思いで仕事をされていること、それがまだ続いていることを私は少なからず承知しているつもりであります。オープン直後であるため一般質問で取り上げることをためらったのですが、心配されることが多いことと「鉄は熱いうちに打て」のことわざのとおり、方向性を確認するのは今しかないという思いで最初に取り上げました。今回市長にお尋ねしたいのは、課題が散見され今後が心配されるが、どのように認識しているのか。課題解決を含め、今後何をどのように改善を図っていくのか。また、その予算規模はどのくらいを考えているのか。オープンしたばかりではあるが、改善すべきは急いで改善し、真の観光拠点化を図るべきということであります。オープンの熱気が冷めやらぬ中ではあります。市では現状の施設そのもの、運営の仕方、交流拠点施設としての状況などを、どのように捉えているのでしょうか。私が課題だと感じていることを少し述べたいと思います。まずは、建物などのハードについてであります。駐車場の案内看板がありません。大館駅方向から正面玄関前に着いても、どこが駐車場なのかの案内がありません。また、駐車場が建物の西側、南側、そして線路伝いにあるものの、どこにとめてよいのかも迷ってしまいます。大館駅におり立った観光客になりきって考えてもみました。私の視力が弱いこともあってか、大館駅から施設を見ると何の建物なのか判然としません。辛うじて「秋田犬の里」の文字は見えますが、玄関部分が暗いため、人を引きつける演出が必要だと思います。大館駅から来ると正面玄関から入りますが、車で来場した場合は西口か東口のどちらかから入ることになります。どちらも通用口のようなつくりで、案内も弱いため一瞬戸惑います。西口には身障者用駐車場がありますが、インターホンが正面玄関にしかありません。全体的に照明が暗い印象ながら、それはまだ我慢できるレベルですが、売店の棚が暗いのは改善を要すると思います。しょうやならせん階段の手すりの一部には落下防止のネットが張られていますが、中途半端な状態で、小さい子供が落下する危険があります。これは早急に改善したほうがよいと思います。階段を上り切ると屋上に出ますが、出入り口にスロープがあったほうがよいのではないかと思います。

次にソフトと運用についてです。観光拠点という割には、観光案内所を示すアルファベットの「i」の文字をかたどったマークが小さすぎます。大館駅からでも見えるように大きくするべきではないでしょうか。また、観光案内所ではパンフレットが分散配置されており、スムーズな観光案内ができないのではないかと思います。展示については、滞在期間を延ばすことや、この施設を吸引力のあるものにしようとするならば、早い時期で見直しが必要だと感じます。せっかくの屋上も、上っても何かがあるわけではなく、らせん階段で期待を膨らませた分がっかりします。最低でも展望できる山の名前を示すとか、強風対策を施した上で遊具を置くなど工夫が必要だと思います。運営に関しては売店業務を大館市観光協会に業務委託していますが、契約が不明瞭で理解に苦しむ部分があり、早急な改善が必要だと感じます。最初は市の直営でやるということではありますが、職員が4名もいる必要があるのかも疑問です。百歩譲ってその職員が何か企画的な業務をし、今後展開するというのであれば理解できますが、鍵の開閉や場内アナウンス、設備の点検や運転であれば市の職員の配置は不要で、売店業務・観光案内業務と一括して委託するなどにしたほうがよいのではないかと思います。スタッフの休憩室もないため、倉庫で昼食をとっているということも聞きました。相当改善の余地がありそうです。これは、当初からまず市直営で運営してみて、費用等の状況を精査した上で指定管理の導入を検討するというようなことであつたと思うのですが、こうした体制はいつまで続けるのでしょうか。いずれにしても、現状のままでは早々に飽きられしまうことは想像できます。早いうちに次なる手を打つ必要があると思うのですが、予算もない状況ではそれも進みません。今後の展開についてどうお考えなのか、予算をつけて改善を図るつもりがあるのか、予算規模はどれくらいを想定しているのか、お示しをいただきたいと思います。また、秋田犬の里本体以外のこととなりますが、鳴り物入りでできた観光交流施設でありながら、市内主要道路のどこにも秋田犬の里へ誘導する看板がありません。これは余りにも不親切ではないでしょうか。大館駅から出たところにも誘導看板があればよいのではないかと思います。巨額の費用と多く人の努力によってできた観光交流施設です。大館駅前に新たな交流人口をふやす拠点をつくることで、観光による地域活性化を図ろうと進めてきた福原市長の政策は、まず第一歩を踏み出しました。大館駅舎の改築もそれと連動していますので、中途半端な状態では許されないと思います。市長の力強い答弁を期待するものであります。

次の質問は、**観光基本計画を実効性のあるものに見直しを**。平成28年に策定された「大館市観光基本計画（2016～2023）」は当初から**具体性が弱い計画であつたが、ここ数年の観光シーンの急激な変化に対応していないだけでなく、基本計画としての方向性、行動指針が不明瞭である**。交流人口がふえるだけでは**市民理解が得られないのではない**か。産業政策として**明確な方向性を打ち出してほしい**というものであります。本当であれば、最初の質問の前に観光基本計画の内容を問うべきなのですが、この質問で言わんとすることは、まさにこの質問の順番の違和感そのものであると言えます。市のさまざまな施策は基本計画などの大方針があり、そ



の下に実行計画などが置かれるのが本来であることは言うまでもありません。基本計画が骨太でしっかりしていれば、細かい事業はそれほどぶれることはありません。市長が常々口にされる「正しい政策は残る」という言葉のとおり、基本計画がきちんと策定されていればよいのですが、今回取り上げた大館市観光基本計画はどうでしょうか。策定から既に3年を経ているため詳細には触れませんが、最も基本的な部分について再度確認したいと思います。まず、基本理念ですが「匠と歴史の宝箱を発信」「北東北の観光都市大館」とあります。わかるようで、考えれば考えるほどよくわかりません。宝箱というからには、潜在的な大館の魅力をもっともっと発信していこうということでありませうか。次に基本方針ですが、交流人口の拡大、観光の産業化、広域連携の促進という3つの柱が掲げられています。そして施策目標は、さきの3つの基本方針に基づいて、次の5つがうたわれています。1. 大館ブランドの向上、2. プロモーション力の強化、3. おもてなし体制の強化、4. 広域観光地域づくりの機能強化、5. 海外からの誘客拡大です。この後、目標数値が示されています。そして最後には「具体的な施策についてはアクションプランで示しながら毎年度見直しを行う」とあります。本来は目標数値についての進捗を問いたいところではありますが、その前提の施策目標そのものが「強みを生かす」「地域資源を活用する」「おもてなしの意識の醸成」「体制づくり」「組織体制整備を進める」といった曖昧模糊な言葉の羅列であり、具体的にそれが何を指しているのかわからないのであります。肝心のアクションプランには細かいことがたくさん書かれていますが、これまでやってきたことを並べた感が強く、人も財源も限られている中で従来やってきたことを焼き直ただけでよいのだろうか、これらを進めても観光客に支持されるのだろうかと疑問に思うことが多く書かれています。アクションプランは見直しをしているのでありませうか。実際に観光行政に携わる皆さんも、これらの方針をよくわかっていないまま、やみくもに走っているということはないでしょうか。近年の観光課の職員の多忙さは物すごいものがあります。残業時間を見ても財政課か観光課かというくらいであります。仕事がたくさんあってよいことのようにも思えますが、観光課職員がさまざまなイベントの手伝いに忙殺されることは本務ではないのではないかと私は思っています。市職員の仕事は市民サービスに直接触れることもあると思いますが、観光課の仕事は、小さな力でも最大限の力を引き出す「仕組み」という名でこをつくることではないでしょうか。そのためにも、基本計画や実施計画の策定にもっと力と情熱を注ぐべきではないかと思うのです。この基本計画の最後に子どもサミットの参加者からの意見が掲載されているのですが、子供たちの指摘の的確さには驚かされます。「イベントは多彩だが、観光客を呼びたいのか、市民で盛り上がりたいのか、中途半端なものがほとんど」「市外から来る人々にも分かりやすいように、観光案内看板を目立つところに設置、観光地や名所を紹介した案内地図の作成及び設置をするべき。また、それらを外国人向けに多言語化の整備をしてほしい」などの意見がありました。観光まちづくりを進める上で、大館市が長くそうした政策展開をしてこなかったツケが今、回って来ているように思うのです。ですから、秋

田犬の里のような施設ができたときに多くの市民そして観光客から祝福されるところが、看板が足りない、お土産が足りない、あかもこれも足りないと不満が一気に噴出してしまっているのが現状ではないかと思うのです。福原市長の頑張りによって、ずっと動くことのなかった大館駅前が開発が大きく動いたことは本来特筆すべきものであると思うのですが、そんなことで不足の念を言われてしまうのは悔しくて残念であるというほかありません。しかし私たちはいま一度、最近たったの数年間で大館を取り巻く観光シーンが大きく変わったことを、振り返って評価する必要があるのではないのでしょうか。秋田県を代表するような特徴ある資源を幾つも有しながら、観光地ではないと隅に置かれていた大館市でしたが、今や秋田犬だけではなく、さまざまな体験を目指して国内外から人々が訪れるようになりました。お土産品もまだまだバリエーションが少ないのですが、以前よりはだいぶふえました。市内に散在する温泉は大館ぐるみ温泉郷として国民保養地の指定を受け、さらには温泉ガストロノミーでの取り組みも浸透しつつあります。外国人観光客を毎日のように目にする。何年前には想像できなかったことであります。そうした新たな取り組みや動きのほとんどはこの基本計画にうたわれていませんし、アクションプランも実態に即してかなりの修正が必要ではないかと思えます。秋田犬の里の質問でも指摘したように、観光まちづくりは観光施設をつくっただけでは全く不十分であり、観光・交流は都市そのものを売ることでもありますから、総合的な政策である必要があります。観光による交流人口をふやすことで大館市に活力をという市長の思いを成就させるためには、その根幹となる観光基本計画を正しく、誰が読んでも明瞭な内容に、そして具体的に設定していく必要があるのではないのでしょうか。そして何よりも観光は産業政策であるという側面を強く押し出していく必要があると考えます。市長の御所見を伺います。

3点目の質問は、熊に関する対応のあり方について。熊対策は後手であると感じるが、対策には限界があるため現在の対応方を改める必要があるのではないか。目撃情報通報での課題、情報発信のあり方の不十分さ、猟友会頼りの対策の限界などを鑑み、「今できること」の見直しをする必要があるのではないかというものであります。ことしも熊が出没する季節になりました。市内各所から熊の目撃情報が寄せられています。ことしは新聞等で目にするのが幾分少ないように感じています。これは熊が減ったわけでも、目撃例が減ったわけでもないであろうということは多くの方が知っている公然の秘密ではないかと思えます。もう大分前から言われていることではありますが、熊の目撃情報を市や警察に通報すると最終的には警察が調べに来てかなりの時間を割かれるため、仕事にならない、面倒だから通報しないということが多くの人から聞かされてきました。農村部や山間部では、いつ熊に遭遇してもおかしくない状況であり、ふだんからいるものをわざわざ通報してどうするという人もいるでしょう。しかし、熊などの野生大型獣になれていない人々が多く住む人口密集地に出没情報があると大騒ぎになります。また、本来は人を怖がり人工的な音などがあると近づかないと言われていた熊も、最近では子熊のころから人間の生活圏の近くで生活してきているため、人間が出した音や物を学習

し、車の音も草刈り機やチェーンソーの音も何とも思わない熊がふえているとも言われています。熊に対して無防備な私たち市民は、目撃すると恐怖に震え、市役所や警察そして猟友会などに助けを求めるほかありませんが、正義の味方よろしく素早く出動し電光石火のごとく熊を退治してくれるということはありません。熊への対応については、関係者の不断の努力によって遭遇や事故の件数が最小限度で済んでいるものと思いますが、最前線に立つ猟友会会員の減少や高齢化の話、通報の課題に触れるにつけ、このままでよいのだろうかと考えてしまいます。今回は熊対策について幾つか提案をしたいと思います。まず一つは、熊目撃情報の収集の仕方についてであります。市役所農林課や警察に通報すると聴取に時間がとられるため、それを嫌って情報の精度が上がらない懸念については、札幌市の熊情報の扱いが参考になると思います。札幌市ではヒグマの目撃情報をホームページで公開していますが、目撃日時や場所を通し番号で管理し、位置情報は個体そのものの目撃だけではなく足跡やふんの目撃情報、また一個体なのか親子なのかを区別して地図上に表示されており、どのエリアが危ないのか一目瞭然で有用な情報だと思います。市民が直接情報をアップロードできる仕組みにはなっていないようですが、大館市でも同様の仕組みを構築し、通報や駆除に頼るだけではなく、市民一人一人が注意をすることを助ける情報のあり方を構築すべきではないかと思えます。次に、猟友会の皆さんが今よりもっと活動しやすい素地づくりが必要だということでもあります。駆除は行政からの依頼で行われるもので、我々素人が考えているような単純なものではないようです。危険を伴うだけではなく、生きている動物の殺生にかかわるといことはそれなりのストレスもあるかと思えます。また、費用負担の問題も現状のままで適当なのか、再確認する必要があるのではないのでしょうか。さらに駆除許可は、現状では県の許可と伺っていますが、これを市許可に権限委譲していただき、より迅速に対応できる体制にできないか、現状を改善するだけで動きやすくなるということもあるのではないかと思えます。そして3点目は、熊の出没をどうにか制限できないか、予防線を張れないか、研究・実証を進められないかということでもあります。熊を人家などに近づけない方策がないものか私なりに調べてみたのですが、熊以外の野生獣については、動物が忌避する超音波を発生させて追い払うという機械をつくっている企業がありました。なぜ熊が対象になっていないのかわかりませんが、そういった企業と連携して実証実験を行ってみる方法も考えられるのではないのでしょうか。また、最近はドローン活用が花盛りであります。遭難者の捜索には、体温を感知する赤外線カメラを装備して暗闇でも生体確認ができるというものがあります。このカメラの部分熊の出没しそうな場所に設置し、接近したら音や光、電気・匂い・薬品などを発して追い払うというシステムも考えられると思えました。学習能力の高い熊に、人里は危険であるということ覚えさせるのであります。市単独では難しいと思えますので、研究機関や大学、企業との連携は可能ではないのでしょうか。熊対策に頭を悩ませている自治体は多いはずですから、そうした地域と連携しながら取り組むことも考えられますし、大館市がそうしたノウハウを蓄積し産業化することも不可能ではないので

はと考えます。素人のアイデアと一笑に付されるかもしれませんが、熊対策がなかなか進まない中、また人的資源に限界がある中で市民生活を守るためには、そういったものにも挑戦していくべきではないかと思いますが、市長はどのようにお考えでしょうか。

最後の質問は、道路維持に関する情報管理のシステム化を図ってはどうか。道路の破損など、毎年多くの苦情や要望が市民から寄せられているが、情報の受信・整理・改修実施に多くの手間が割かれていることは想像にかたくない。そうした一連の流れをICT化することで業務を効率化し、市民への情報の見える化を進めることができる。導入を検討してはどうかというものであります。熊と同様、春になると道路の穴がふえ、市民からの要望・苦情もふえます。言うほうも言われるほうも皆「またか」と思っているのではないかと思います。しかし、そうした問題こそ改善しがいのあるテーマだと私は考えるのであります。毎年春に寄せられる道路の穴に対する対処の要望・苦情を、電話だけではなく発見者がスマートフォンや携帯電話で撮影し、位置情報をつけて市に通報する仕組みを考えてはどうかというものであります。担当課である土木課には相当数の通報があると思いますが、たった一つの穴なのに、対応がおくれると複数の方から通報が来ることがあるのではないのでしょうか。しかも通報した側からすると、いつ直すのか毎日気をもみ、自分が考えている時間と市の対応までの時間に差があると怒りが増幅してクレームを入れ、市担当者は都度内容を確認して返答しなければならないという非常に効率の悪い業務、またストレスの多い業務をこなしているのではないかと思います。通報システム化するだけで通報者も気軽に通報できる上、担当職員の業務時間やストレスを軽減させる効果が期待できます。湯沢市では昨年4月から市民が道路の破損や街灯の故障などを見つけた場合、スマートフォンなどから通報してもらう「まちもん ゆざわ」というシステムの試験運用を開始しているということですが、これは既にでき上がった仕組みを提供している業者があるようで、こうしたものを使うのが一番手っ取り早いと思います。しかし、大館市においてはせっかくポリテクカレッジもあるわけですから、学生向けに行政課題を改善するプログラムを募集するコンテストを実施してはどうでしょうか。学生の社会参画の機会を提供すると同時に、市役所がより使いやすい仕組みを要件として、さらには業者発注する金額よりも安い金額を賞金にするなどして「挑戦者を応援する大館市」をPRすることもできるのではないかと思います。課題先進県ならではの取り組みになると思います。さきの質問の熊の目撃情報収集システムもほぼ同じ仕組みでプログラムすることができますから、1つの課題から3つくらいの利を得るということも考えてみてはいかがでしょうか。以上5点にわたって質問させていただきましたが、今、私たちがすべきは挑戦であります。大館市の積極的な挑戦によって市民生活が少しでもよくなるように、市長の前向きな答弁を期待して終わります。

御清聴ありがとうございました。(拍手)(降壇)

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長(福原淳嗣君) ただいまの小棚木議員の御質問にお答えいたします。

まずお答えする前に、24年前から私の挑戦の隣には、常に小棚木議員の叱咤激励がありました。令和の時代においても変わらず叱咤激励を賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

1点目、「秋田犬の里」の今後について。課題が散見され今後は心配されるが、どのように認識しているか。課題解決を含め、今後何をどのように改善を図っていくのか。また、その予算規模はどのくらいを考えているか。オープンしたばかりではあるが、改善すべきは急いで改善し、真の観光拠点化を図るべきについてであります。さきに大館市観光協会の総会でも申し上げましたとおり、あの施設はあれがゴールではありません。小棚木議員が言うように、改善すべきは早急に改善し、地域間連携あるいは官民連携のかなめとして活用するべきときと考えております。また、小棚木議員が指摘されましたとおり、大館のみならず、秋田ひいては東北を囲む観光の状況は劇的に変わっております。4年前、第5代大館市長に就任させていただいたときの東北を訪れる外国人旅行客いわゆるインバウンドは52万6,000人、それが昨年度は2倍以上の121万4,000人になっています。この伸びについて、政府にはさらに30万人を上乗せする、それを来年までに達成するという方向性があります。町を世界に開く、世界の人たちが大館に来る、そういった観点をきちんと歴史的な方向性として受けとめて進めていくべきだと考えておりますし、また、小棚木議員の持論でもあり、観光こそまさに大館の総合産業だと私も考えております。その点を踏まえてお答えをさせていただきたいと思っております。大館市観光交流施設秋田犬の里は、4月17日のプレオープンから肉の博覧会が行われた6月2日までの間に8万人を超える方々に御来館いただいております。また、秋田犬展示室は累計で約2万人の方々にごらんいただいております。施設の集客の中心になっています。確かな手応えを感じた一方で、小棚木議員御指摘のとおり、さまざまな課題がお客様からいただいたアンケート内容から見えてきました。8割を超える方々から一定の評価をいただいているものの、決してあぐらをかきつもりはありません。秋田犬の展示の方法、館内のスペースの利用の仕方、展示内容などに関する実にさまざまな御意見・御要望もいただいております。大館市としましては、これらの御意見・御要望を逆に秋田犬の里に対する期待のあらわれ、あるいはお客様の視点から見た改善のチャンスと捉え、予算も考慮し、きちんと議会に御報告申し上げながら、できるだけ早期に可及的速やかに対応していきたいと考えております。また、リピーターをふやすため館内の企画展示を工夫し充実させるとともに、この施設がまち歩きの拠点、特に大館駅前から御成町方面へのまち歩きの拠点となるよう、民間団体や企業と連携しながらガイドツアーの開催などソフト面の充実を図っていきたいと考えております。なお、施設の経営方法につきましては、施設の運営実績や運営ノウハウを積み上げた後、できるだけ早く民間を活用した仕組みにしていきたいと考えております。どうか御理解を賜りますようお願いを申し上げます。

2点目、観光基本計画を実効性あるものに見直しを。平成28年に策定された「大館市観光基本計画」は当初から具体性が弱い計画であったが、ここ数年の観光シーンの急激な変化に対応していないだけでなく、基本計画としての方向性、行動指針が不明瞭である。交流人口がふえ

るだけでは市民理解が得られないのではないか。産業政策として明確な方向性を打ち出してほしいについてであります。まさにそのとおりです。4年前、まさか観光がここまで盛り上がるとは誰も考えていませんでした。そういう認識のもとでつくられた計画はできるだけ早く見直すべきだと、市長として考えていることをまず御理解いただきたいと思います。現行の観光基本計画につきましては、計画期間を平成28年度から令和5年度までの8年間としていました。ちょうどことしが4年目となり、中間評価を行い見直すタイミングであります。見直しに当たっては、地域連携DMO秋田犬ツーリズムの設立や秋田犬の里のオープン、あるいは3D連携や奥州藤原を縁とした交流など、ソフトの面を含めて本計画が策定されて以降、実に大きく変化した状況をきちんと反映させる必要があると考えております。小棚木議員御指摘の内容も踏まえて検証した上で、これまで築いてきた広域連携における大館の位置づけや、進むべき目標あるいは方向性なども明確にしていきたいと考えています。各施策につきましては、まず、ふるさと秋田我が大館の宝である秋田犬を活用した情報の発信、民間企業や各種団体と連携した受け入れ体制の整備などを基本としながら、観光が地域の産業に恵みをもたらすという考えを明確にし、費用対効果や外部からの集客による経済効果などを分析しながらその方向性を定め、具体的な計画をつくっていききたいと考えております。令和という新しい時代を迎え、さらなる観光誘客、そして交流人口拡大の指針・羅針盤となるよう、計画を積極的に見直していきたいと考えておりますので御理解をお願いいたします。

3点目、熊に関する対応のあり方について。熊対策は後手であると感じるが、対策には限界があるため現在の対応方を改める必要があるのではないか。目撃情報通報での課題、情報発信のあり方の不十分さ、猟友会頼りの対策の限界などを鑑み、「今できること」の見直しをする必要があるのではないかについてであります。現在、警察や市に寄せられた熊出没等の情報につきましては、市のツイッターあるいは地元新聞によるほか、県のホームページにおいて地図情報として周知がなされているところであります。小棚木議員御指摘の情報発信のあり方につきまして、札幌市のホームページを早速確認しました。非常に見やすく、わかりやすい内容でございました。こうした先進事例を参考にしながら、必要な情報をできるだけより迅速に、しかもわかりやすく市民の皆様にお伝えできる方法を検討していきます。具体的には、札幌市のように熊の出没地点についてツイッターで発信する内容に位置情報を追加していくほか、地図上であらわし、市のホームページで公開していくよう取り組んでいきます。なお、市に目撃情報が寄せられた場合、必ず市の職員が現場に駆けつけ状況に応じてクラクションや爆竹を鳴らして追い払うほか、現場から人家あるいは住家までの距離が近い場合には大館警察署等と連携しながら広報活動を行うなど、人的被害が発生しないよう迅速な対応に努めている現状にあります。熊を初めとする有害鳥獣に関する対策については、猟友会・JAあきた北・大館警察署・北秋田地域振興局、そして大館市で構成する大館市鳥獣被害対策協議会において、関係機関が一体となって被害防止対策の検討あるいは捕獲活動に取り組んでいます。特にここで重

要になるのが県の活動でございます。秋田県内には1,000頭くらいしかいないとされていましたが、それが実は3,000頭以上、4,000頭近くいるということ踏まえて、今、北秋田市でモニタリングの調査をしております。そういうものを大館市だけではなく、隣接の市町村、自治体で共有することを通じて、さらに熊対策に対するノウハウを広い範囲で共有しようという県の意向のあらわれでもあることを御理解いただきたいと思っております。そうした中において、実に実働部隊としての猟友会の皆様には、最前線で捕獲活動に当たっていただいております。市では市街地等における出没対策について、昨年に引き続き緩衝帯等整備事業を行っております。これは石垣博隆議員の御提案を踏まえてのことです。今年度は小柄沢墓園と十瀬野公園墓地での整備を予定しているほか、農作物等獣害防止防護柵設置事業補助金の交付要件も緩和して、地区のニーズに応じて緩衝帯等の整備を進めていきたいと考えております。今後もさまざまな熊対策について情報を収集するとともに、先ほど小棚木議員からドローン活用の話もございました。こうした技術を持つ関係機関との連携をさらに密にしながら、効果的な取り組みを行ってまいります。御理解を賜りますようお願いを申し上げます。

4点目、道路維持に関する情報管理のシステム化を図ってはどうか。道路の破損など、毎年多くの苦情や要望が市民から寄せられているが、情報の受信・整理・改修実施に多くの手間が割かれていることは想像にかたくない。そうした一連の流れをICT化することで業務を効率化し、市民への情報の見える化を進めることができる。導入を検討してはどうかについてであります。お答え申し上げる前に、現場の課である土木課は実に厳しい大変な状況にある中で、できるだけ市民の要望に応えるという活動をしていることに対しまして評価をいただいたことに感謝を申し上げたいと思っております。市では市道を適正に維持管理するため、職員そして路面補修受託業者による定期パトロールを行っております。パトロールで確認しきれないものについては、市民の皆様や協力をお願いしている運輸事業者などからの情報をもとに、都度、破損状況の確認を行っております。道路等の破損状況について市民から通報があった場合には、場所の特定に地理情報システム(GIS)を活用し、対応の迅速化を図っております。しかしながら小棚木議員御紹介のとおり、舗装の傷みが著しい春先は例年穴埋め等に関する通報が多数寄せられ対応に時間を要していることから、業務のICT化が欠かせないという認識を持っています。市では現在、道路等の破損を発見した市民からスマートフォン等を使って広く情報を収集するシステムの導入について検討しています。現在、そのシステムの有用性や課題を検証しているところであります。このシステムを導入することにより、通報と同時に位置情報と画像も送ることが可能になります。場所の特定や状況の把握が劇的に早くなり初動の迅速化が図られるほか、業務の効率化も期待できます。小棚木議員御紹介のとおり、県内では既に湯沢市が導入しているほか、試験導入している自治体もあることから、これらの先進事例などを参考に、より迅速に市民と情報共有できる仕組みを検討していきたいと考えております。また、小棚木議員から提案がありましたコンテストは非常によい提案であると考えております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。(降壇)

○3番(小棚木政之君) 議長、3番。

○議長(小畑 淳君) 3番。

○3番(小棚木政之君) ありがとうございます。積極的に改善していただけることを期待しております。その上で、それぞれの質問について再質問したいと思います。1点目は、秋田犬の里についてであります。あれだけの施設であれば、通常は館長という最高責任者もしくはそれに準ずる現場の責任者を置く必要があると思うのですが、現状では責任者は観光課長なのか産業部長なのか、市長なのかわかりません。館長という責任者を置いて、その人に全てを一任するというお考えはないでしょうか。2点目ですが、大館駅前に観光協会の案内所があったときにはレンタサイクルがありました。これは市からの委託であるそうですが、秋田犬の里に観光協会の案内所が移ってからはレンタサイクルが中断している状況であります。割とあの自転車に乗って市内を散策されている観光客がおりましたので、ぜひ復活していただきたいと思うのですが、現場の皆さんに聞きましたら、レンタサイクルをやりたいけれどもそこにかける人材的な余裕がないということでありました。これまでの自転車は通常の自転車ですので、坂道が多い大館の町を走るには難儀されると思いますので、ぜひこの機会に電動アシスト付自転車を導入する、または、人手がないということであれば、最近では全国の観光都市に行きますとほとんどが無人でスマートフォンを使って自転車が借りられるという仕組みもありますので、そういったところも検討していただきたいと思います。それについての御所見をお伺いしたいと思います。3点目ですが、観光基本計画の見直しを積極的に進めていただけるということで、ありがとうございます。これは前から話をしておりますけれども、観光基本計画だから観光課だけということは絶対ないと思います。先ほども話をしたとおり、市全体を売ることありますから、道路の状況、町の状況、お土産品など大館市全てが見られますので、ぜひ新しい観光基本計画では、市を挙げて大館の町を売り込むという方向に向かうという計画にさせていただくよう要望したいと思います。4点目は熊対策でございますが、緩衝帯という話がありましたけれども、私は昨年熊に遭遇しました。けっこう開けたところでしたけれども熊が出ました。熊は私を見て驚くかと思ったら、鼻息で「ふん」と何事もなかったかのように通り過ぎていきましたので、昔とは熊も違うのだと思いました。先ほど提案したように、熊をなるべく近づけない、そういった技術の導入を検討していただきたいと要望したいと思います。5点目は道路の穴のシステムについてですが、湯沢市が試験運用しているシステムがよいという話をしましたが、実は市の担当者がどのような画面で管理しているかはさすがに確認できませんでした。毎年道路の穴を見ているすと、同じところに穴が開くのだなと感じています。表面のアスファルトだけではなく道路の地盤そのものに問題があるのだらうと思いますので「毎年穴がありました、塞ぎました」というやりとりの情報をただ載せるのではなく、ある程度それを蓄積することによって、ここの道路は表面だけではなくて地盤に問題があるのだというノウハウが



得られると思います。ぜひそういったシステム開発を検討する上では、道路のカルテといひますか、履歴を確認して次の道路改修に進むことを検討していただきたいと思ひます。その点を含めて御答弁をいただきたいと思ひます。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（小畑 淳君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） ただいまの小棚木議員の再質問にお答えいたします。5点目から先にお答えさせていただきます。まさしく小棚木議員御指摘のとおり、道のカルテをつくっていくためにもICT化を導入すべきだと思ひます。こういったデータはビッグデータの活用になりますし、繰り返すことで実は担当課の職員の負担が劇的に減るからICT化を進めていくのだという意識を、職員の皆さんと共有して積極的に導入に動きます。4点目の熊対策に関しましては、熊が新世代になった第3世代の熊という表現もよくされております。奥山と里山の間に緩衝地帯をつくっていくことを、市民の皆さんあるいは周辺の自治体の皆さんと共有をしていきたいと考えております。あわせて、熊対策に関しても最先端技術を導入すべきだと考えておりますし、語弊を与える言い方かもしれませんが、秋田で暮らすということは熊がいて当然の暮らしです。それを忌避するような雰囲気にするのではなく、むしろ秋田で暮らすということはこういうことなのだという捉え方をしていきたいと考えております。何年か前に北秋田市で売っていた「里に犬、山に熊」のように、熊がいることを変に不安視するのではなく、そこに積極的にかかわっていくことで人里があるのだという認識をきちんとつくっていききたいと考えております。3点目の観光基本計画に関しては、先ほど申し上げましたとおり、抜本的に見直していきます。これは私自身が積極的にかかわっていきます。全庁を挙げて取り組むべき課題です。むしろ、日本という国が世界に国を開いていくのと同じように、大館も世界に町を開いていきます。そうした中には、あらゆる分野がかかわってくると思ひています。後段、斉藤則幸議員の観光危機管理の話にも出てきますが、海外からお客様が来たときに地震が起こることも大いにあり得ます。あるいは観光のツーリズム、スポーツのツーリズムなどいろいろな目的で大館に世界中からお客様が来るようになれば、これは観光課で考えられるものではないと思ひます。全庁を挙げてきちんと計画をつくっていくことをお約束申し上げます。2点目のレンタサイクルですが、たまたま今朝、メルカリがレンタサイクル事業をIT企業に売却という話がありました。実は、仙台市に出張するたびに同じシステムができないかと思ひ、会社に聞いてみましたが、大館市は半年が雪のため使えませんと言われました。しかし、そこで諦めるような市長ではありません。必ず何かできると思ひますので知恵を出していききたいと考えております。1点目の秋田犬の里についてですが、すばやく対応できる組織はリーダーシップが明確であると思ひますので、館長を必ず置かなくてはならないと考えております。これが私の見解です。よろしくお願ひいたします。

○議長（小畑 淳君） 次に、佐藤芳忠の一般質問を許します。

〔21番 佐藤芳忠君 登壇〕（拍手）

○21番（佐藤芳忠君） 市民の風の佐藤芳忠です。

大館駅は去年の11月まではJRの直営駅で、奥羽本線の管理駅として前山駅から陣場駅間の各駅を管理していましたが、去年の12月1日から東能代駅管理の業務委託駅になってしまいました。質問に入る前にまず、駅の種類について御説明します。駅には直営駅と業務委託駅と簡易委託駅があります。直営駅とはJRの正社員が駅の業務を行う駅です。駅長や副駅長、助役や一般社員など全てにJRの正社員が配置されています。業務委託駅とはJRの子会社が駅の業務を行う駅です。人件費を削減するためJRは子会社の、JR東日本ステーションサービスやJR東日本東北総合サービス、JR新潟ビジネス、長鉄開発などに駅の業務を委託しています。簡易委託駅とは乗車券類の発売（出札）が、鉄道会社から市町村や農協や商店や個人などに委託された駅です。簡易委託駅の駅員は乗車券類の発売など窓口の出札業務だけを行い、集札及び改札などの業務はその駅に停車する列車の乗務員が行います。ちなみに早口駅は簡易委託駅です。現在、大館駅はJRの社員ではなく、子会社のJR東日本東北総合サービスの社員が駅の業務を行っています。業務委託駅になるとどうなるのか、鷹ノ巣駅を例にとり御説明します。2015年10月1日に鷹ノ巣駅はJR直営駅から業務委託駅になり、駅長や助役はいなくなり早朝夜間の駅員配置もなくなってしまいました。現在は大館駅同様、JR東日本東北総合サービスの社員1名が集札や改札などの駅業務を行っています。みどりの窓口がないため、新幹線の指定席券や在来線の特急指定席券や定期券は指定席券売機で買わなくてはなりません。しかし指定席券売機は6時35分から17時5分までしか使えない上、11時15分から13時までは社員が休憩し窓口を閉めているため、指定席券売機の操作方法を聞くことができないものです。休憩時間中の集札や改札は停車した電車の乗務員が行っています。また、JR直営駅のみどりの窓口では午前10時から指定席券を買えますが、業務委託駅の指定席券売機では10分おくれの10時10分からでなくては買えないことと指定席券売機が1台しかないため、希望する日時の指定席券を必ずとらなくてはならない人や指定席券売機の操作ができない人などは、大館駅や東能代駅のみどりの窓口まで買いに行っているとのこと。近距離の券売機の利用時間も6時35分から17時5分までです。この時間外の電車に乗る人は、改札口の脇にある乗車証明書発行機から乗車証明書を取り、車内または着駅で運賃を支払わなくてはなりません。このように、業務委託駅になると駅員は減り、出改札時間も短くなり、乗降客へのサービスも悪くなり、みどりの窓口もなくなるなど非常に不便になります。私は業務委託駅の状況を調べるため久しぶりに鷹ノ巣駅に行ってきましたが、鷹ノ巣駅前にはJRの直営駅だったころのような活気はなく、駅前商店街も昔と違い寂れていました。皆さんの中には、みどりの窓口でなくてもJT B大館店や弘南観光大館営業所などの旅行代理店で買えばいいじゃないかとお思いの方もいるでしょうが、JT Bに問い合わせたところ、JT B大館店では新幹線の指定席券を発券できないので、

発券というのは券を発売するということですが、予約を受け付けると大館店は仙台のＪＴＢに連絡し、仙台から指定席券を送ってもらっているとのこと。そのため、お客様には予約後一週間ほどしてからでない指定席券を渡せないとのことでした。仙台のＪＴＢは土曜日と日曜日が休みなので、予約日によってはもっと日数がかかる場合もあるとのことでした。つまり、みどりの窓口があれば、きょうの午後の新幹線の指定席券でも駅で買えるのですが、ＪＴＢなどの旅行代理店では、一週間以内の指定席券、きょうやあしたやあさっての新幹線の指定席券は買えないのです。業務委託駅になった大館駅からみどりの窓口がなくなると、市民は指定席券売機で買うか、弘前駅か東能代駅のみどりの窓口まで行って買うしかなくなるのです。ことしの２月中旬、私は市民の方から「大館駅がＪＲ直営駅でなく業務委託駅になり、鷹ノ巣駅のようにみどりの窓口がなくなるのは困る」と言われました。私は「12月議会に大館駅建設にかかわる予算が計上され議決されたが、市長からも担当部長からも業務委託駅になったとの報告はなかった。市民が不便になり市民が困るような業務委託駅に多額の市費を投入するはずはない」と答え、3月議会で確認し連絡することにしました。しかし、市民の方が言ったことは事実でした。3月議会で市長に確認したら、市長は大館駅が業務委託駅になったことを12月定例会の前に知ったとのことでした。大館駅の建設を審議する総務財政委員会では、ＪＲ直営駅である大館駅の建設について28年度から3年間審議してきました。しかし業務委託駅になったとの報告がなかったため、12月議会ではＪＲ直営駅としての大館駅の建設について審議したものです。もし大館駅が業務委託駅になったとの報告を受けていたら、総務財政委員会では業務委託駅になった大館駅の建設について審議していました。ＪＲの直営駅が業務委託駅になるということは駅が格下げになり、みどりの窓口がなくなるなど市民が不便になり市民生活に大きな影響を与えるからです。そのような駅になった大館駅に9億円もの市費を投入した上、年間数百万円もの維持費を出し続けることの是非を審議し、業務委託駅の実情に合った計画に変更するよう求めていたでしょう。ＪＲの言いなりに、1億円もかけて運輸区を駅裏に建てるような無駄はやめさせ、国鉄時代からの業務により生じた土壌汚染物質等の除去費用はＪＲの負担とさせ、市の適正な見積もりで事業を行えば費用が半分になるからです。第1点、**大館駅が業務委託駅になったことをどうして議会に報告しなかったのか**お伺いします。

大館駅の建設に関しては、短期間で二転三転し、今では当初のものとは内容も目的も全く別のもになってしまいました。3年前、28年7月の計画当初「大館駅合築による駅ビル」は2階建て2,280平方メートル。事業費は9億5,800万円。大館駅分は700平方メートル。市駅ビル分の1,580平方メートルには観光案内所、観光物産館、曲げわっぱ体験工房、飲食店コーナー、イベントホール、バスターミナルが入り、市駅ビルは鉄道とバスの交通結節点、交流拠点施設、観光案内機能、飲食・物産販売機能を持つ「滞留型及び周遊型観光拠点施設」とのことでした。それが4カ月後の28年11月には、面積は1,400平方メートルに減り事業費も6億4,500万円に減りました。大館駅分は600平方メートル。市駅ビル分は800平方メートルと、当初の4カ月前の

半分になってしまいました。イベントホールとバスターミナルはそのままでしたが新たに多目的室がつけ加えられ、観光案内所は観光案内コーナーに飲食店コーナーは売店になり、観光物産館、曲げわっぱ体験工房はなくなってしまいました。この時点ではJRの負担は1億130万円でした。そして1年8カ月後の30年3月には「大館駅合築による駅ビル」との名称から「駅ビル」という言葉が消え、名称が「大館駅合築駅舎」に変わりました。そしてまた面積が減りました。面積は1,040平方メートルに減り大館駅分は558平方メートル。市の分は482平方メートルと当初の3分の1になってしまいました。そして観光案内コーナーも売店もなくなり、市の分はイベントホールとバスターミナルと多目的スペースとトイレのみになってしまいました。482平方メートルから本来は駅の施設であるべきトイレと通路を除くと市の分は270平方メートルしかありません。このように面積は減りましたが事業費は6億4,500万円から13億5,000万円に倍増しました。建築面積が360平方メートルも減ったのに事業費が倍になったのです。理由は簡単です。JRが見積もった額をそのまま受け入れたからです。このようにたった1年8カ月で市駅ビル事業は市が大館駅を建設する事業に変わってしまいました。目的についても、28年7月当初は滞留型及び周遊型観光拠点施設でしたが、29年3月には大館駅前地区を再開発する事業、大館駅前地区の再生につなげる事業へと変わり、30年6月には大館駅周辺の再興に欠かせない事業へと変わりました。しかしながら、JRが経費削減のため大館駅を業務委託駅にした今、駅を取り巻く状況は大きく変わりました。鷹ノ巣駅前を見ればわかるように、直営駅ならまだしも業務委託駅になった駅を建設しても、駅前の再生にも駅周辺の再興にもつながらないものです。町の再生にも再興にもつながらず市民が不便になるような業務委託駅を、9億円超もの市費で建設した上、年間数百万円もの維持費まで市が負担し続ける必要はありません。駅はJRがつくるべきです。第2点、「みどりの窓口」がなくなるなど市民生活に大きな影響を与える業務委託駅への市費の投入は見直すべきと考えます。市長のお考えをお聞かせください。

以上で終わります。(拍手)(降壇)

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長(福原淳嗣君) ただいまの佐藤芳忠議員の御質問にお答えいたします。

JR直営駅から業務委託駅になった大館駅への市費の投入について。①大館駅が業務委託駅になったことをどうして議会に報告しなかったのか、②「みどりの窓口」が無くなるなど市民生活に大きな影響を与える業務委託駅への市費の投入は見直すべきについてであります。この2点につきましては、関連がございますので一括してお答えを申し上げたいと思います。まずもって佐藤芳忠議員におかれましては、先ほど申し上げましたとおり、4年前、5代目市長に就任させていただいたときの東北のインバウンドの数が50万人だったのが、昨年、平成30年120万人を超えるぐらいに増加をしているというお話を先ほど小棚木議員の一般質問のお答えの中で触れさせていただきました。そうしたお客様がたくさん東北に来るようになった中で、

昨年の4月には日本政府の観光局の理事長にJR東日本の前会長が、そして昨年の6月には東北観光推進機構の会長にJR東日本の副会長がそれぞれ就任をされております。今や鉄道は町と町をつなぐ観光インフラだと私は認識をしておりますし、都度、そのお話を議場でもさせていただいているところであります。こうしたことを踏まえてお答えさせていただきたいと思っております。JR大館駅の業務委託駅化については、JRグループ全体が地方の鉄道事業において、都会とは違い非常に厳しい経営意識を持っている中で情報化の投資を図るとともに業務の効率化、生産性を高める中での水平分業を進めるために行われたものであり、駅の運営について子会社に委託したものと伺っております。JRにおいては明確に「駅は交通の結節点であると同時に「まちの顔」としてのにぎわいを創出する役割を担っている。社会環境の劇的な変化に対し、未来をつくるためには駅を進化させなければならない」としており、菊地秋田支社長からは「今後もJR大館駅については、鷹ノ巣駅以北の秋田北エリアにおける重要な観光拠点駅であり、交通の拠点駅として位置づけている」との説明を直接受けています。佐藤議員、実はこの菊地支社長がいよいよ転勤ということになりまして、きょうの夜、秋田市で菊地支社長を慰労する会が開催されます。私は所用がありますので名村副市長に行っていただきますが、先ほど電話でこの一般質問の内容を確認しました。菊地支社長ははっきり言っていました。「駅の格下げでは決してありません。JRグループ全体のドル箱は都会です。東京を初めとする大都会です。こういうような方々を地方に展開をしていく一番重要なのが、やはり都会に住まわれている方々の地方に対する意識づけを明確にしていくことだ」とのことです。そうした中において、例えば公共交通会社系のカード、スマホもそうです。Suicaもそうです。そのようなもので膨大なビックデータを分析すると、これからは対人で券を売るのではなく、ネット等を有効に活用し券を買っていただくことだけではなく前後の物語をつくることを含めて、一括的なサービスとしてかかわっていくことが必要だということ力を説かれておられました。ちなみに、私はスマホで駅ネットというアプリを使って、新幹線あるいはJR線の駅の切符を時々手配することがありますが、時代はそういう時代に向かっております。そうしたことも含めて、より大局的な主観でこの事業を捉えていただければ非常にありがたいと考えております。ただし、佐藤議員御指摘のとおり、直営から業務委託になってサービスが低下するのではという不安があるのは確かだと思います。この点に関しては、決してそうではないということも私たちも言っていかなければならないと考えております。改めて申し上げたいと思います。政府は国を世界に開こうとしています。大館もまた、世界に町を開いていきます。大館駅合築駅舎の改築を含む駅周辺の整備事業につきましては、これまでも申し上げておりましたとおり、交通面・観光面・産業面において大館の核となるエリアに、にぎわいと活気を創出するとともに、外と大館をつなぐ非常に重要なプロジェクトと位置づけております。そのことは、駅の格付ではないと私は考えております。大館駅合築駅舎の改築につきましては、引き続き可能な限り事業費の抑制を図るとともに、JR東日本に対してはきちんとよきパートナーとして対等の立場

として費用の負担などを求めていくなど、市の負担の縮減を図りながらできるだけ早く進めていきたいと考えております。国を挙げてインバウンドをふやすための施策を積極的に展開していることを考えましても、大館駅は非常に重要であると考えております。これは駅というハードだけではなく、冒頭申し上げました観光推進組織の関係性ということもぜひ押さえていただければありがたいと思います。今後はさらにＪＲ東日本と連携し、大館を基軸とした周辺観光モデルの構築、観光資源の磨き上げなど、観光資源の強化を図るとともに、大館駅前地区のにぎわい創出などにつなげていきたいと考えております。改めて申し上げたいと思います。３Ｄ連携が今の函館・津軽・秋田広域観光推進協議会をつくるきっかけになっております。まさにその中間地点に大館は位置しております。こういった点をこれからも生かしていきたいと考えておりますので、どうか御理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○21番（佐藤芳忠君） 議長、21番。

○議長（小畑 淳君） 21番。

○21番（佐藤芳忠君） 2つの質問をしまして、2つ一緒にいうことでお答えくださったのですが、第1問目のどうして議会に報告しなかったのかについてはお答えになっていませんのでお答えください。それから、ＪＲが厳しい経営意識を持っているため業務委託駅になったとおっしゃいましたが、2,779億円もの純益を出しているＪＲが厳しい経営意識を持っているなら、664億円もの借金を抱えている当市はＪＲ以上に厳しい経営意識を持たなくてはならないと考えます。この点についてはいかがお考えでしょうか。それから、にぎわいを創出する、駅がにぎわいをつくとおっしゃいましたが、ＪＲが経費削減のため業務委託した駅のにぎわいなどつくれるはずがありません。新幹線の駅ならともかく、業務委託駅が未来をつくるために進化するはずはありません。にぎわいを創出したいのなら、駅ではなくて駅前に9億円超のお金を使うべきと考えます。それが第2点です。そして3点目、市長は業務委託駅になっても何も変わらないとおっしゃいましたが、鷹ノ巣駅前の現状をごらんになってください。市長は鷹巣町御出身ですから、昔の直営駅ころの鷹ノ巣駅前を御存じのことと思います。そのころと比べてください。業務委託駅になった今は悲惨な状況にあります。ですから私は大館駅もそうなる可能性が大きいということを言っています。市長がそうならないと言うのであれば、ＪＲのほうからどのような具体的な答えをもらったか、例えば、みどりの窓口は廃止しないとか、そういうような答えをもらったか、それについてお答えください。そして4点目は、ＪＲはパートナーだとおっしゃいましたが、パートナーとはフィフティー・フィフティーの間柄であり、今回の駅に関して言えばＪＲはゼロで金は一銭も出さないで、市は全額出します。これはフィフティー・フィフティーではなく、私はこういうのはパートナーとは言わないと思いますがいかがでしょうか。以上4点について、それと、お答えにならなかった、どうして議会に報告しなかったのかについてもお願いします。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（小畑 淳君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） 全体としては4点ということでお答えを申し上げたいと思います。まず、どうして議会に報告しなかったかについてであります。議会に報告する内容ではないと私は考えております。これはあくまでもJRグループの中での経営判断でありまして、大館市役所がどうのこうの言うものではありません。そして厳しい経営感覚ということに関しても意識が全然違います。人口の過半が、私たちが小さいころは田舎にありましたが、都会に集中する中で鉄道のありようも通勤通学でビジネスモデルが構築できるところ、そうでないところは観光路線でということになっており、できるだけ多くの都会の方々を地方への旅へいざなおうという経営方針を明確にしている中で地方との関係性を構築しています。そういった中においてこそ、技術は確かに革新をしています。そしてそういう中で、新しい旅行消費と観光消費をさらに拡大させるという方向性を、きちんとつなげていく上でJRさんとの信頼性を構築していかなければならないと考えています。パートナーというのは負担が多いからではなくて、そのことに関して対等に意見を交わせるかということだと思います。きょうは恐らく、名村副市長は菊地支社長を送る会でこういうやり取りがあると思いますが、これからその後どうなるかを踏まえても、今、大館市とJRはそれを対等に言い合える間柄であります。そういう側面をぜひ理解をしていただきたいと思います。それから鷹巣には、おっしゃるとおりお墓、本家がありますのでよく覚えています。逆に佐藤議員、内陸縦貫鉄道の発着点でもある角館駅にも行っていただきたいと思います。今2万人の方々が利用している路線の、まさにターミナルの駅になっています。そのため波及効果はじわりじわりではあります。角館から北上していると認識しております。そしてJRもそれをきちんとフォローするアクションを必ずとると私はうかがっております。それから具体的なJRさんのスタンスということに関しましては、あくまでも民間企業でありますので、短期的なもの、中期的なもの、長期的なものは必ずあります。ですがそれを早急にここで言えということに関しては、もう少し時間をいただきたいと思えます。きちんと説明ができるようになったときは、必ず議会に御報告申し上げることをお約束いたします。

○21番（佐藤芳忠君） 議長、21番。

○議長（小畑 淳君） 21番。

○21番（佐藤芳忠君） 28年度から直営駅ということで、ここで全員協議会を開いて、このようにしたいと当局が説明しました。そして先ほども言いましたが、総務財政委員会では直営駅として審議をしてきました。それが変わったということは、今までの審議と全く違う状況になったということですから、報告する必要がないということはおかしいと思います。市の金を出さなければ報告しなくてもいいです。ただ、市が9億円ものお金を出して、毎月数百万円もの……（発言する者あり）議長、質問している最中に、このような発言をしないように注意してください。

○議長（小畑 淳君） 暫時、休憩いたします。

午前11時23分 休 憩

---

午前11時23分 再 開

○議長（小畑 淳君） 再開いたします。

引き続き、佐藤芳忠君の質問を許します。

○21番（佐藤芳忠君） ですから、9億円ものお金を出して、毎月数百万円もの駅の維持費まで半永久的に出さなければいけないような事業に対して、議会に説明する必要がないというのは、やはり私はおかしいことだと思います。そしてJRをパートナーと言うのであれば、みどりの窓口はなくなるのでしょうか。その点2つお答えください。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（小畑 淳君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） 何回も申し上げますが、一企業の経営方針に行政のほうから、こうですああですとは言えないものだと私は理解をしております。そして今は、きちんと全体的な方向性、インバウンドを含め観光の拠点として大館駅を位置づけていくということに関しては、同じ方向を向いて進んでいるということをぜひとも御理解いただきたいと思います。

---

○議長（小畑 淳君） この際、議事の都合により休憩いたします。

午前11時24分 休 憩

---

午後1時00分 再 開

○議長（小畑 淳君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

斉藤則幸君の一般質問を許します。

〔18番 斉藤則幸君 登壇〕（拍手）

○18番（斉藤則幸君） 公明党の斉藤則幸でございます。通告に従いまして順次一般質問に入らせていただきます。

初めに、市長の政治姿勢についてお伺いいたします。きのう、既に3人の同僚議員が取り上げていますので重複する部分もありますがよろしくお伺いいたします。①示された民意についてお伺いいたします。市長選が終わった後、地元紙に「令和にふさわしい政を」「バリアフリー推進」などといった大きな見出しが掲載されました。今回の市長選は、再選を目指す福原氏と、新人で初の女性候補との一騎打ちとなり、福原氏が再選を果たしました。その差、9,435票について、どう見るかは人それぞれですが、示された民意について市長はどのようにお考えでしょうか。また、4年前の市長選では新人だった福原氏が、現職市長として全国最多の7選を目指した小畑氏に9,655票差をつけて初当選を決めました。そのときは福原氏の圧勝という印象



でした。投票率が大幅に低下した今回と、前回とを比較するのは余り意味がないかもしれませんが、2回の激しい市長選を乗り越えた今の率直な気持ちをお伺いいたします。

②低過ぎる投票率についてお伺いします。既に新聞などでも報道されていますが、今回の市長選は2期目を目指す現市長と、初の女性候補との市長選となり、私は投票率が上がるのではないかと期待していましたが、過去最低だった前回の72.29%から、さらに8.46ポイントも下がり、63.83%と過去最低を更新しました。もっとも、4月21日に投開票された県内の選挙は、全て前を下回ったと報じられていますので本市だけのことではありません。さて、5月16日の北鹿新聞に今回の大館市長選の年齢別投票率の結果が掲載されておりました。神明投票区を抽出して調査した結果では、20歳代前半が23.29%、20歳代後半が29.07%、そして、18歳から19歳までが23.26%という結果でした。なお、最高は70歳代前半の82.18%でした。今回の低過ぎる投票率について、市長の率直な御所見をお伺いいたします。

③今後取り組むべき政策についてお伺いいたします。今回の市長選は、福原市政の継続か刷新かを大きな焦点として、人口減少や産業振興、子育て支援や企業誘致など、さまざまな課題をめぐって、舌戦が繰り広げられたと報道されました。青年会議所が主催した2人の論戦テーマは「最優先課題」「若者の移住・定住を促進する政策」「地域資源の活用」などでしたが、ほかにも福原氏が今回の市長選で訴えていた「バリアフリーのまちづくり」なども含めて具体的に、どう取り組んでいかれるのか。また、今定例会の所信表明では「大館力をみがく、つなぐ、ひらく」を理念に5つの政策を深化させると話しています。その5つとは「匠」「連携」「にぎわい」「ひとづくり」「安心」でした。改めて、今後取り組むべき政策の具体的な中身と市長の御決意をお伺いいたします。

次に、SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みについてお伺いいたします。SDGsは、2015年に国連で合意した、貧困・環境保全・教育・平和などに関する17の目標と、169のターゲット（具体目標）が示され、既に世界規模で取り組みが始まりました。169のターゲットには、例えば目標1の「貧困をなくそう」に付随するターゲットとして、2030年までに現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困を、あらゆる場所で終わらせることが掲げられています。「誰一人取り残さない」との基本理念に基づき、日本を含む全ての国連加盟国・地域が、2030年までに達成することを目指しています。今回の市長選でも、青年会議所が企画した2人の議論の中で「SDGs未来都市・大館の実現に向けて」が、1つの議論のテーマでもありました。さて、2018年7月に国連本部で開かれたSDGsに関する政治フォーラムで、SDGsの採択から3年たった現時点における各国の現状が共有されました。日本では、積極的にSDGsに取り組んでいる29の自治体をSDGs未来都市として、2018年6月15日に選定しています。このSDGs未来都市とは、持続可能な都市・地域づくりを目指す自治体を選定し、政府が予算をつけて応援していこうという取り組みですが、特徴的なことはその取り組みを経済・環境・社会の3つの観点から持続可能性を見ているところではないかと思

ます。この中で、循環型の森林経営に取り組んでいる北海道下川町などが紹介されています。北海道の北部に位置する下川町は、人口約3,400人で厳冬期にはマイナス30度Cを記録することもある厳しい環境にありながらも移住者がふえ続け、2016年の50歳から住みたい地方ランキングで全国第1位に選出されたところでもあります。また、下川町は第1回ジャパンSDGsアワード総理大臣賞を受賞しています。さて、公明党SDGs推進委員会外交部合同会議で第1回ジャパンSDGsアワード受賞者、企業、団体の意見交換会が行われ、山口公明党代表から「誰一人取り残さないとの理念は、公明党が長年掲げてきた生命・生活・生存を最大尊重する人間主義の理念と合致する。SDGsが国際社会の隅々まで浸透するよう強力に推進していく」と挨拶がありました。SDGsの未来都市に選定されている自治体のディスカッションでは、静岡県のある市長は「最初にリーダーシップをとるのは、やはり行政ですね」と発言しています。SDGsの目標は、私たちにも深いかわりがありますが、スケールが余りにも大きく、現状ではまだなじみが薄い状況にあるのではないのでしょうか。日本でのSDGsの認知度も19%とまだ低い状況にあります。さて、17の目標とは1番目の「貧困をなくそう」から17番目の「パートナーシップで目標を達成しよう」まであり、また、9番目には「産業と技術革新の基盤をつくろう」などが掲げられています。日本では17の目標のうち、達成されていると評価されたのは目標4の「質の高い教育をみんなに」の1つのみであり、その他の目標は未達成となっております。特に4段階の評価で最も低い評価が、目標5の「ジェンダー・平等を実現しよう」や目標12の「つくる責任、つかう責任」、目標13の「気候変動に具体的な対策を」、目標14の「海の豊かさを守ろう」などがあります。ちなみに、SDGs達成ランキングでは日本は156カ国中第15位で、2018年7月に公表されたトップ5は、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ドイツ、フランスでした。こうしたSDGsの取り組みは、大変に有意義なことではないかと考えますが、市長として①SDGsについてどのような認識を持っているか。

また、目標17には「パートナーシップで目標を達成しよう」とあり、②SDGsは近隣の市町村と連携していくことが大事ではないかと思えます。以上2点について、市長の御所見をお伺いいたします。

次に、「子どもの遊び場」の取り組みについてお伺いいたします。ことしの2月、子育て中のお母さんなど市民有志が「大館市に子供の遊び場をつくってほしい」と、4,500人を超える方々の署名を集め、大きな反響を呼びました。市議会に提出された陳情も採択されました。平成最後となったことしの3月定例会でも多くの同僚議員が取り上げ、市長も誠実に答弁されていたと記憶しております。陳情の趣旨を見ると、1番目には「一年中遊べる屋内の遊び場を、より多くの方が容易に移動することが可能な範囲で利用できる場所につくってほしい」というものでした。また、未就園児の子育て支援の場として、有浦児童館につどいの広場ひよこがありますが、時間制限や休日に使用できないなど、幾つかの課題も指摘しています。私が市長答弁で特に注目したことは「子供や子育て世帯の視点から町をデザインする、キッズデザインと

いう考え方がまちづくりには重要。公共施設や空き店舗など活用可能な施設を早急に調査し、スピード感を持って子供たちの遊び場の整備実現に向けて取り組む」と答弁した点にあります。キッズデザインという言葉を知りましたが、今すぐに新たな施設をつくることはできなくても、公共施設や空き店舗などに子供の遊び場を整備してほしいと思います。陳情に記されていた「遊びを見守り、時には保護者の相談・話を聞いてくれるようなスタッフが常駐する遊び場を」という子育て真っ最中の若いお母さんたちの願いに、ぜひともスピード感を持って取り組んでいただきたいと思います。市長のお考えをお聞かせください。

次に、**市の観光危機管理の現状について**お伺いいたします。今、本市では秋田犬の爆発的なブームや関係者の努力によって、観光客、特に外国人観光客や宿泊者が増加しています。特に秋田犬ツーリズムが果たしている役割は、非常に大きいものがあると思います。観光庁の2018年宿泊旅行統計では、日本人宿泊者数は減少傾向にある一方、外国人宿泊者は前年比11%増となり、調査開始以来、最高となっています。さて近年、大雨やゲリラ豪雨など全国的にも災害が頻繁に起きています。昨年9月6日に起きた北海道胆振東部地震は、最大震度が震度階級で最も高い震度7で、北海道では初めて観測されたことはまだ記憶に新しいのではないかと思います。道内に広がった停電は市民生活を直撃し、とまったままの電車、充電できない携帯電話、動かない冷蔵庫など、その影響は丸一日過ぎても続きました。札幌市では、携帯電話を充電できるように燃料電池車を配備し、市役所前には午前7時半ころから200人も人が行例をつくりました。同じく札幌市のホテルでは、ブラックアウトなどによる停電で観光客に大きな影響が出ました。特にこのときは、外国人観光客にとっては多言語での災害・交通・避難情報などが十分ではなく、災害時の対応に大きな課題を残しました。こうした災害はないにこしたことはありませんが、万が一の事態を想定し、今から観光の危機管理について十分に取り組んでいくべきではないかと考えます。本市では既に国土強靱化地域計画を策定しています。ことしの3月定例会で市長から行政報告がありましたが、第1章の基本的な考え方から第4章の計画の推進と不断の見直しまでこと細かく載っています。起きてはならない最悪の事態まで想定した取り組みについては、単なる計画から一歩進んだ非常によい取り組みではないかと思います。さて、最悪の事態1の5、情報伝達の不備等による避難行動のおくれによる死傷者の発生の中に「市民へ情報伝達ができない」ことを回避するための推進方針では、常住・在留、一時的滞在外国人等への情報伝達は優しい日本語表記に努めるとあります。大変に大事な指針ではないかと思いますが現状がどうなっているのか。本市の観光危機管理の現状と今後の取り組みについて市長のお考えをお聞かせください。

最後に、**带状疱疹ワクチンの接種費用に市で助成できないか**についてお伺いいたします。带状疱疹は、加齢や疲労、ストレスにより免疫力が低下したときによく発症すると言われていています。50歳代から罹患率が一気に上昇し、70代でピークに達するとのこと。80歳までに3人に1人が带状疱疹になると言われています。带状疱疹の患者さんは全体のうち約7割が50歳以

上ですが、残りの3割には20代、30代も含まれており、若い人でも発症する可能性があると言われています。専門的な中身については、医師から教えていただかないとわかりませんが、带状疱疹の患者さんの話では、ずきずきするような痛みがあると聞いたことがあります。さて、带状疱疹ワクチンの接種費用に対する助成は、全国的にはこれからの話と思いますが、高額と聞いていますので市で独自に助成できないものでしょうか。新聞報道などによると、名古屋市では2020年から助成を始める方針であり、これまで承認されている2種類のワクチンのうち、1つが接種費用8,400円で、もう1つが16,000円くらいとのことですが、対象を50歳以上と想定し半額を助成する方針とのこと。带状疱疹は、急性期の痛みだけではなく、長期に痛みが持続する場合もあると聞きます。また、老々介護などストレス環境に身を置いている人は、特に带状疱疹の予防が必要になると言われています。带状疱疹ワクチンの接種費用に市で助成できないか、ぜひとも検討してほしいと思います。市長のお考えをお聞かせください。

以上で一般質問を終わります。どうもありがとうございました。(拍手)(降壇)

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長(福原淳嗣君) ただいまの斉藤則幸議員の御質問にお答えいたします。

1点目、市長の政治姿勢について。①示された民意についてであります。今回の選挙で賜りました2万4,594票は、これまでの4年間、人口減少問題に立ち向かい、明るい未来を切り開くべく、積極的に進めてきたさまざまな取り組みに対する評価と、今後への期待と認識しております。今回の選挙結果を私への叱咤激励と捉え、常に初心を忘れることなく、市民の皆様の負託に応え、令和という新しい時代を担う首長として、市民の皆様にお約束した政策を確実に進めてまいる所存でございます。

②低過ぎる投票率についてであります。今回の市長、市議会議員選挙におきましては残念な結果と認識しております。投票率がまさに過去最低、年代別では、特に若年層の投票率が特に低い現状であります。投票率の向上のためには、本市の現状や抱える課題を御理解いただいた上で、目指していること、そして、これから取り組もうとしていることをわかりやすくお伝えし、市民の皆様に「まちづくりは私ごとでもある」という認識を持っていただくための取り組みが今後はさらに重要になってくると考えています。あわせて、今後も投票率や市民の利便性の向上につながる取り組みを検討していただくように選挙管理委員会にきちんとお伝えしてまいります。

③今後取り組むべき政策についてであります。令和の始まりとともに幕を開けた福原市政2期目は、大館力をさらに「磨き」「つなぎ」、未来に対して「まちをひらく」まちづくりを進めてまいります。まちづくりを進める上で掲げている「匠」「連携」「にぎわい」「ひとづくり」「安全・安心」の5つの柱の具体的な施策について御説明申し上げたいと思います。まず1つ目の「匠」では、製造業の発展を支えるインフラ整備や暮らしをつなぐ技術開発に対する支援、小規模事業者への支援のほか、新しいビジネスの仕組みづくりにも取り組みたいと考えていま

す。2つ目の「連携」では、農林業と商工業の連携として、食品メーカーによる大館産食材の商品化をさらに促進させます。大館ブランドの確立と国内外を見据えた販路拡大に取り組むほか、林業の成長産業化などにより産業振興を図っていきます。3つ目の「にぎわい」では、ふるさと秋田我が大館が誇る秋田犬を基軸とした観光振興に引き続き取り組むとともに、秋田犬の里を拠点とした周遊観光を進めるほか、渋谷をキーワードにした、ものづくり&コトづくりプロジェクトにも取り組んでいきたいと考えています。4つ目の「ひとづくり」では、本市の最重要課題である少子化について、これまでの子育て支援策に加えて、自宅を訪問して悩み相談を受ける産前・産後サポート事業や、家事代行を行う養育支援訪問事業などに取り組み、さらに充実を図るほか、子供・子育てを大切にする視点——キッズデザインを念頭に置き、ニーズをきちんと調査して、しっかりと把握しながら子育てしやすいまちづくりを進めていきます。また、市民の皆様様の健康増進とスポーツを通じた交流促進による地域の活性化に向け、スポーツ庁との連携をさらに強化し、官民共同による地域スポーツコミッションの創設を目指してまいります。5つ目の「安全・安心」では、障害者や高齢者を含む全ての市民が安心して暮らすことができるバリアフリーのまちづくりに国や県と連携しながら取り組み、多くの方が利用するエリアのバリアフリー化を重点的に進めるほか、高齢者を孤立させないよう、地域の支え合いを育む生活支援体制整備事業をさらに推進してまいります。また、第4次産業革命という歴史的な転換点において、国土交通省が実施している自動運転の社会実証実験に参加し、交通不便地域の移動手段の確保による市民の暮らしをつなぐ施策にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。2期目の市政運営においては、大館が持つ力をみがき、つなぎ、未来に町をひらく施策の実現を通じて「内に優しく、外に強い大館づくり」を目指してまいります。

2点目、SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みについて。①SDGsについてどのような認識を持っているか、②SDGsは近隣の市町村と連携していくことが大事ではないかについてであります。この2点につきましては、関連がありますので、一括してお答え申し上げます。SDGsは、貧困・環境など国際的に長年取り組まれてきた持続可能な開発目標であります。その目標達成には、先進国・発展途上国の区別なく全ての国が、さまざまな関係者とのパートナーシップのもとで取り組むべきものであり、国だけでなく、地方自治体においても取り組むことが重要であるとされております。こうしたことを踏まえ、平成28年5月に内閣総理大臣を本部長とするSDGs推進本部が設置されました。「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済・社会・環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」とするビジョンが示されたほか、まち・ひと・しごと創生基本方針2017の中に、SDGsの推進が盛り込まれ、地方公共団体においても、SDGsの達成を目指すこととされました。私自身、SDGsが求める経済・社会・環境の統合的向上を目指す取り組みには、地域におけるさまざまな課題の解決に貢献するだけでなく、地方創生の実現にも資するものと考えております。そのため、環境負荷低減に向けた取り組みとして、本市の環境管理マニュアルにSDGsが掲

げる17の目標のうちの一つ「住み続けられるまちづくりの実現」を取り入れたほか、貧困連鎖の解消に向けた取り組みとして、本定例会に子どもの学習生活支援事業に関する予算を計上させていただいたところでもあります。また、斉藤議員御質問の近隣市町村との連携については、SDGsが掲げる目標「産業と技術革新の基盤をつくろう」の達成に資するものとして、2市1村の連携による林業の成長産業化に向けた取り組みなどを現在進行中であります。私自身、24年前市議会議員に立候補した際「リサイクルマイパークは国の宝になるから進めよう」と訴えさせていただきました。当時、議場で私が質問したことに対して、小畑市長は懇切丁寧に答えていただいたのをきのうのこのように覚えています。その際「リサイクルなのかサイクリングなのかわからない」というやじが飛びました。実は、当時から大館市役所の中には、ほかの自治体が取組まないことに挑戦し、そして近隣市町村と連携して目標を達成するという風土がありました。秋田県北部エコタウン計画は平成11年11月12日に国の認定をいただいたその根本に、大館市が秋田県庁と進めていたリサイクルマイパークの実現に向けた協議会の存在が非常に強くありました。実は、その段階から環境に関しても取り組んでいます。SDGsに掲げられている17の目標のうち、例えば、水・衛生は9市町村が参画する広域汚泥の資源化事業が進んでいます。成長と雇用、生産と消費に関しても「つくる責任、つかう責任」ということで、まさに環境先端リサイクル都市大館が実現しようとしていることでもあります。このほかにも「質の高い教育をみんなに」も、SDGsの中には「取り残さない」という言葉がたくさんありますが、それを一番うたっているのは高橋教育長です。大館のふるさとキャリア教育は、まさにこのような観点で進めています。そして、生活支援体制整備事業においても、高齢者の皆様をというよりも今まで大館を支えてきてくれた皆様を、ひとりぼっちにさせないことこそが今の大館市政の根本にございます。SDGsの取り組みを模範にしながら取り組んでいきたいと思っております。ただし、「SDGsの先進都市になるのか、ならないのか」という再質問をされるのであれば、これを含めたバリアフリーまちづくりだと御理解いただきたいと思っております。高齢化が一気に進む中においては、恐らく移動性、モビリティをきちんと捉えていかないと暮らしが繋がっていかないと思います。そのような政策の方向性の指針として、SDGsは非常に有用だということを幹部職員ときちんと共有しておりますので、ぜひとも御理解をいただきたいと思っております。

3点目、「子どもの遊び場」の取り組みについてであります。今年度、市では子供の遊び場を充実するため、有浦児童会館内のつどいの広場ひよこ及び女性センターの託児室の2カ所に木のおもちゃのある広場の整備を計画しております。また、今年度、第2期大館市子ども・子育て支援事業計画の策定に当たり、ニーズ調査を実施することとしており、子供の遊び場についても子育て世帯から直接御意見を伺い、計画に着実に反映していきたいと考えています。引き続き、活用可能な公共施設等がないか検討を進めるとともに、市民の皆様の声を踏まえながら子供たちの遊び場整備を進めてまいります。

4点目、市の観光危機管理の現状についてであります。大館市地域防災計画では、自力で避難することが困難な高齢者・子供・乳幼児・妊産婦・障害者及び日本語がわからない外国人の方々を要配慮者として位置づけ、災害時における避難誘導などの支援を行うこととしております。災害発生時には、自助及び共助の力で、命を守るための的確な行動をとることが大切であります。市としましては、外国人旅行者の方々も含め、適時・適切に情報をきちんと提供していくことが非常に重要であると考えております。しかしながら、外国人旅行者の中には日本語がわからず情報の入手が困難な方もいると思われまますので、観光庁が監修した災害情報を5言語で配信する災害時情報提供アプリを紹介するとともに、自然災害発生時の訪日外国人旅行者への初動対応マニュアルガイドラインを、観光施設や宿泊施設に周知していきたいと考えております。また、現在、市ホームページのリニューアルを検討しており、外国人の皆様がスマートフォンなどで各種の災害情報を瞬時に入手できるよう、多言語機能を導入するとともに、優しい日本語表記についても研究を進め、万が一の際、適切に情報伝達ができるよう環境を整備してまいります。今後は、外国人旅行者のみならず、本市に定住する外国人の増加も予想されます。市内在住の外国人や、外国語に精通した方にボランティアとして登録していただき、災害発生時に外国人と円滑なコミュニケーションがとれる体制を構築するなど、外国人の安全・安心の確保に努めてまいります。

5点目、帯状疱疹ワクチンの接種費用に市で助成できないかについてであります。帯状疱疹は、体内に潜む水痘のウイルスが加齢などによる免疫低下に伴い増殖し発症するものであります。強い痛みを伴う水疱が3週間から4週間ほど続き、人によっては数カ月から数年にわたって痛みが残ることもあるつらい病気あるとうかがっております。国内では、平成28年から水痘ワクチンが、50歳以上の帯状疱疹の予防を目的として使用できるようになりました。現在、国においてワクチンの効果と影響を分析しながら定期接種化に向け検討しているところであります。本市では、大館市予防接種会議において議論していただきたいと考えております。帯状疱疹予防接種にかかる費用の助成について検討していきたいと考えております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。(降壇)

○18番(齊藤則幸君) 議長、18番。

○議長(小畑 淳君) 18番。

○18番(齊藤則幸君) 3点目の「子どもの遊び場」の取り組みについて、再質問させていただきます。市長のお考えはよくわかりました。その上での話になりますが、有浦児童会館内のつどいの広場ひよこは大変に人気があり、若いお母さんたちからも利用されております。そのお母さんたちから「できれば、平日の利用時間を延ばしてほしい」との声がありますが、その点について、市長の考えをお伺いいたします。

○市長(福原淳嗣君) 議長。

○議長(小畑 淳君) 市長。

○市長（福原淳嗣君） つどいの広場ひよこは、2月に若いお母さんたちからいただいたハート形のメッセージボードの中に「ひよこでママ友ができた」「新しい人間関係ができて、相談する相手が見つかった」等、非常に高く評価していただいていることは実感しております。現状を申し上げますと、午後2時から放課後児童クラブが始まるため、延長ができないそうです。しかし、それは平成の政であり、令和の政はそれではだめだと思っています。知恵を出さなければならないと思います。ほかに使える公共施設があるのか、あるいは延長に対しても前向きに検討して議会に報告させていただきたいと思います。絶対に諦めない。これが令和の、2期目の姿勢でございます。

○議長（小畑 淳君） 次に、田村儀光君の一般質問を許します。

〔14番 田村儀光君 登壇〕（拍手）

○14番（田村儀光君） 今定例会最後の一般質問者となりました令和会の田村儀光です。質問に入ります前に、市長、2期目の当選おめでとうでございます。大事な4年間になりますので、今まで以上に頑張っていたきたいと思っております。私も市民の代弁者として、またこの場に立つことができましたことを非常にうれしく思っております。これからは、今まで以上に市長を初め市当局の皆さん、同僚議員の皆さんから御指導・御鞭撻を賜りたいと思っております。よろしくお願ひします。市長は持っている男で、ちょうど令和元年の節目に2期目の市長に就任しました。非常に期待しております。さて、令和の時代はどうなるのか、私自身考えてみましたが、私の尊敬する哲学者、岡田茂吉氏に「文明の創設」という、21世紀の新文明、建設と破壊について書かれた論文があります。地球規模の論文です。岡田氏は昭和30年に亡くなっており没後65年がたちますが、その論文の内容を簡単に言うと「21世紀には、悪いことをする人がいなくなり、平和な世の中ができる」という教えであります。21世紀といっても100年間あります。今2019年、私は今70歳ですので、せいぜい生きてもあと20～30年です。令和の時代は30年くらい続くのではないかと思います。できれば、その間に新文明、平和な時代が訪れてくれればよいと思っております。話を大館に戻しますと、今まさに建設と破壊、解体の状況であります。市役所新庁舎の建設が始まりました。駅前周辺整備事業はことし実施設計、来年度に工事に入り、再来年には新しい駅舎ができる予定です。秋田犬の里は未完成ですが、ことし中に完成予定です。旧正札竹村本館棟は解体工事が始まっています。来年度から跡地をどのように利用するのか、いろいろな政策を考えていると思っておりますが、まだ白紙のようです。また、市立総合病院から市役所までの通りは、無電柱化の工事が毎日行われています。福原市政にとっても、この4年間に大館がどのような町に変わってくるのかがあらわれてくると確信しています。そのような意味でも期待しておりますので、一生懸命頑張っていたきたいと思っております。それでは、質問に入ります。

1点目、1期目の自己評価と2期目の大館のまちづくりにかける思いについて伺います。1



期目の自己評価については、私も福原市政のかじ取りを4年間見てきて、百点満点をつけて褒めてきました。本当によくやっていると思います。父の時代からいろいろな首長を見てきましたが、一番すばらしい首長だと思っています。話がうまい人はたくさんいますが、実行力・実現性があるのは福原市長だと実感しております。点数をつけるとすれば1年100点、4年間で400点になりますが、マイナス点があります。それは、何度も申し上げてきましたが、平成28年に総合計画を策定し市民と協働でまちづくりをしようと言ってきた割には、市民と語る会が少ないことです。市民との触れ合いが余りありませんでした。私の住む田代地区には、いまだに「市長が変わっても何も変わらない」と言う人がいます。市長は「市長の仕事はマラソンのつもりだったが、100メートルダッシュの繰り返しだった」と走ったものですから、足をけがして1～2カ月休むことになったのではないかと思います。市民と協働でやっていたら、けがもしなかったのではないのでしょうか。また、私は「必要な政策には幾らお金をかけてもよいので、全国に発信するような大館独自の事業を実施してほしい」と何回も言ってきました。先ほどの市長の答弁にもありましたが、私は物足りないと感じました。国・県のシナリオどおりの事業を実施して、たまたま認定を受けて交付金もたくさんもらいましたが、思い切った政策ができていないと思います。それもマイナス点です。もう一つ、私は喫緊の課題である人口減少対策として大館版CCRCをつくってほしいと就任以来お願いしてきました。立派に計画を立てて予算ももらいましたが、今となってはどこへ行ってしまったのでしょうか。さて、私は市長の「大館というところ。」の講演を3回ほど聞きましたが、その中で非常に好きなのが「いつも笑顔で」「人の悪口を言わない」「一緒に遊ぼう」の言葉です。それ以来、私はその言葉を生活の指針にしています。本当によい言葉だと思います。この精神を忘れずに2期目も頑張りたいと思います。私ごとですが4月に孫が生まれました。孫が20歳になるまで長生きして、孫のためにも大館の町が住みよい町になるようにしたいと思っています。市長、よろしくお願いします。

2点目、駅前開発と秋田犬の里について伺います。駅前開発について、先ほど同僚議員から駅の運営についての質問がありましたが、勉強になりました。市民から「みどりの窓口がなくなるかもしれない」「東能代駅まで買いに行かなければならない」との相談を受けたことがあります。私は「それを解消すべく駅を改築して、大館駅の乗降客がふえるように一生懸命に力を入れて頑張っていく」と答弁して納得させています。どこへ行っても駅はその都市の玄関であり、窓口であります。大館市では、大分前に駅前開発について地元町内会との話し合いが行われたそうですが、白紙となり今の状態になっております。そこへ秋田犬の里ができました。来年から本格工事が始まり、再来年には新しい駅ができます。今の駅前通りは、花善は建てかえて立派になりましたが、朝市はなくなりました。新しい駅ができるまでに、どのようなまちづくりをすればよいのかを地元町内会と何回でも打ち合わせをして実施してほしいと思います。大館の顔である駅前から情報発信するのだという気持ちで、ぜひ地元の町内会とじっくり

と話し合いをしてほしいと思います。駅前をがらりと変えるくらいの気持ちで「大館駅前はいよいよ」と言われるくらい、駅ビルだけではなく駅前通りも整備してほしいと思います。そのような思いでこの質問を取り上げました。また、秋田犬の里は4月17日にプレオープンし、5月8日にグランドオープンとなりました。きのう、観光課からすばらしいアンケート調査の資料をもらいました。市長も当然見ていると思います。プレオープンから6月2日までに8万1,809人の来場者がありました。アンケートの回答者は1,585人でありましたが、私が言いたいことや、先ほど小棚木議員が指摘したことも全てアンケートに書かれています。これを十分に精査してほしいと思います。秋田犬の里の建設に関して、私は絶対に負の遺産にしてはならないとたびたび申し上げてきました。建設費は約9億円、毎年1,800万円の赤字と新聞報道され、市民が大変心配している施設であります。観光交流施設といえども、観光客だけではなく、市民がいつでも集える場所にしてもらいたいと思います。市長はアンケートの8割が肯定的な意見だと言っていました、「ドッグランがほしい」「キッズコーナーがほしい」「飲食コーナーがほしい」「2階のスペースの活用を考えるべき」等の意見も多くありました。私がこのアンケート結果をもらう前に、来場した市民10人のうち10人から「一度見たら、あとは行かなくてよい」と言われました。今はオープンしたばかりですから予想以上の観光客が訪れていますが、このような人たちがまた行きたくなるような施設にしてもらいたいし、できると思います。また、次の質問事項にも関連しますが、秋田犬の里には花がありません。桜を植えるとか、あるいは田代地区では公民館行事で花壇コンクールを実施していますが、そのようなコーナーを設け四季の花を見られる場所にしようでしょうか。ほかにも、旧小坂鉄道レール跡の有効活用について「レール跡を歩けるようにすればインスタ映えする」との意見もありました。いろいろと精査して実施していただきたいと思います。市長のお考えをお伺いします。

3点目、**十ノ瀬藤の郷**について伺います。昨年、一人の青年、石山君が情報発信したおかげで、昨年は約1万人が来場したそうです。募金箱が置いてあるのですが、昨年は6万円の募金があったそうです。新聞紙上では、ことしは2万人以上が訪れていると掲載されていましたが、私の感覚では3～4万人が来場しているのではないかと考えており、一大観光地になっていると思います。そのような場所に市ではどのようにかかわっていくつもりでしょうか。資料を見ますと、ことしの募金額は50万円を超えています。JR東日本秋田支社の「秋田・津軽の花紀行、百花繚乱」にも十ノ瀬藤の郷が掲載されていますが、これはすごいことです。昨年、駐車場問題で質問しましたが、ことしは早速、旧軌道敷に碎石を敷いていただきありがとうございます。私もボランティアで駐車場係をやりましたが、すごい人で大変でした。午前5時ころには既に10台以上の車がとまっています。ほとんどが写真家です。そのような状況が2週間続いたとなると、3～4万人が来場しているのではないかと思います。先日、田代名産たけのこまつりが行われましたが、来場者は公表によると7,000人でした。花だけでこの集客力はすごいと思いました。花で人を呼ばない手はないと思いました。4月に発行されたあきた県議

会だよりの表紙にも掲載され、これを見て来たという方もたくさんいました。実は、昨年の秋田花めぐり手帳には大館はヒマワリしか載っておりません。このようなことにも、どんどん情報を発信してほしいと思います。大館には、5月は藤の花、6月はショウブ、また、バラまつりもあります。大館の花めぐり紀行でもよいですから、ぜひ広報を頑張ってくださいと思います。

4点目、**森林環境譲与税と林業成長産業化地域創出モデル事業**について伺います。森林環境譲与税はわかりますが、近隣2市1村がモデル事業として認定されている林業成長産業化創出モデル事業との違いがよくわかりません。森林環境譲与税と併用して使えるのか、また、どのような関係があるのか伺いたいと思います。森林環境譲与税について、新聞で見ると20区画に分けて、1年に1区画ずつ、20年かけて行う壮大な事業のようですが、その区画分けがよくわかりません。その説明もお願いします。森林組合や業者への説明会や、森林環境譲与税とモデル事業の関連性についてお伺いします。

5点目、**扇田病院着服事件の進捗状況**についてです。人のうわさも七十五日とはよく言ったものですが、あれだけ騒いだ着服事件を今は市民の誰も言う人がいません。行政報告の中で市長は「刑事事件が決着したため、今後は民事事件で被害金の全額回収に努めていきたい」とのことでしたが、民事事件の進捗状況はどうなっているのでしょうか。病院事業管理者が対応していると思いますが、市長は全額回収したいとのことですので市長からも答弁をお願いしたいと思います。また、現在、委託業者と市とのかかわりはどうなっているのかも伺います。

以上で一般質問を終わります。(拍手)(降壇)

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長(福原淳嗣君) ただいまの田村儀光議員の御質問にお答えいたします。

1点目、**1期目の自己評価と2期目の大館のまちづくり**にかける思いについてであります。改めまして、4年前に議場の演壇に立ったときの感慨を思い起こしております。庁舎をどうするのか、そして、地方自治法で最上位計画とされている総合計画や、地方創生法に基づく総合戦略もできるだけ早くつくらなければなりません。かつ、選挙で掲げた政策の一丁目一番地である歴史まちづくり法の認定に向けた取り組みも可及的速やかに始めなければなりません。そのようなことを進める中で、この議場での市議会議員の皆様の建設的な議論が今の大館市政を前に進めていってくれたと認識しております。特に自分の中で思っていることは、私は市長として方向性は掲げますが、市役所内のマンパワーに詳しくありません。マンパワーに詳しいのは事務方の皆さんです。その方々が、私が掲げる方向性の本質をきちんと理解してくれて、自主的に担当部では何かできるのかを積み上げてきてくれました。これに関して、2人の大臣の政策秘書官として培ってきた個人で経験してきたことや個人の知識を、組織の知識にしなければなりません。あるいは、私が個人的に経験したことを組織の形式的な知識にしていかなければならないとの思いをきちんと酌んでくれて、普通ではありえないような部長が市

長とともに勉強に行くという場面を何回も経験させていただきました。これを令和の時代のまちづくりにもさらに増していかなければなりません。市長と一緒に学ぼうとする部長・課長の後ろ姿を見て、若手職員が都市局で行われる勉強会への参加に手を挙げています。私は約8年間永田町で仕事をしてきましたが、職員が市長と一緒に勉強しようとする自治体はありませんでした。わからないことを自分たちが勉強しに行く、また、上司もそれを後押しすることも大切だと思います。また、田村議員から御紹介のあった「いつも笑顔で」「人の悪口は言わない」「一緒に遊ぼう」は、それこそ大館市政がこの4年間貫いてきたところであります。周辺自治体のみならず、同じ政策を進めようとする自治体、秋田県、中央省庁のいろいろな省・局・課の担当者と太いパイプを築いていくことが、とても大切なことだと思っています。何よりも大切なのは、市長としてのパフォーマンスよりも組織力を高めていくために、私たちは何ができるのかを職員の皆と一緒に、車座になって進めることができたことだと感じています。また、掲げる政策を実現する過程で、時にはうまくいかなることもあります。しかし、「市長、一緒に動いてください」というやりとりがたくさんありました。私自身、その突破口をつくるために何回も行きました。そのようなことを通じて、私の背中を通じて、「市長は指示を出すだけではなく、逃げない」「自分たちと一緒に動いてくれる」というような信頼関係をつくることができたことも非常に大きいと思います。今進めている政策をいかに多くの仲間を使って、さらに拡大・深化させて進めていくのかということに関しても、私たちはまさしく挑戦の気持ちでこれからも進めていきます。ほかの自治体がやっていないからやらないのではなく、ほかの自治体はやっていないけれども、今やらなくて誰がやるのかというところをこれからも貫いていきたいと考えております。ただし、田村議員御紹介の「その政策をもっとわかりやすく、市民の皆様にお伝えしていく」ということに関しては、今まで以上に努力を払わなければならないということもしっかりと心得ておりますので、これからも大所高所からの叱咤激励をよろしくお願い申し上げます。また、CCRC構想につきましては、当初からアメリカ型の業種ごとの保険制度ではなく、企業ごとの保険制度ですので、CCRCを大館で進めるには日本の形に合ったものとして進めていっていることをぜひ御理解いただきたいと思います。「おおだて暮らしを楽しむ」基本計画を策定させていただき、先進的な地域として山田地区が掲げられていますが、そのような場所に興味を持ってもらえるような人たちを紹介してくれるパートナー団体、あるいは企業と接触する場面がたくさんふえてきました。最終的には、一人でも多くの方に我が大館に移住してもらうことが何よりも大切だと思います。おおだて暮らしの魅力を充実させることを通じて、健康長寿や生涯活躍のまちを実現し、定住促進と移住者の獲得に向けて引き続き積極的に取り組んでいきたいと考えております。そして、私が進める5つの柱、また、外貨を稼ぐものづくり、外からお客様を呼ぶ物語づくり、この2つの力をしっかりと整えて、来る人口をふやすという方向性はみじんも揺らぐことはありません。これをさらに磨いて、つないで、未来に対して大館を開くという観点から、子供・子育て視点を大切に

するキッズデザインのまちづくり、障害を持たれている方にも優しいバリアフリーのまちづくりを進めていきたいと考えております。また、子育て支援においては、市独自の事業として、子育て世帯の経済的支援のための子育て支援給付金の制度を昨年度から開始しております。今後も、子を産み育てる環境の充実について常に新しい取り組みを進めていきたいと考えております。さらに、令和2年度から始まる市総合計画の後期基本計画及び次期総合戦略の策定においては、市内商工団体やまちづくりに携わる市民団体のほか、行政協力員や本市への移住者など、さまざまな分野・立場の方々から率直に御意見を伺いたいと考えております。きちんと分析して、次の計画に反映させていきたいと考えております。2期目の市政運営につきましても、議会を初め、市民の皆様からの御理解と御協力をいただきながら、決して消えない大館づくりのために一生懸命頑張っていきたいと考えておりますので御理解を賜りますようお願い申し上げます。

2点目、駅前開発と秋田犬の里についてであります。日本を前に進める東北の復興のために、ふるさと秋田我が大館ができること、まさに秋田犬を基軸として、また、函館・大館・角館、3D観光を掲げた一連の大館の動きから、函館・津軽・秋田広域観光推進協議会が立ち上がりました。事務局はJR東日本秋田支社であります。こうした動きの中でオープンを迎えた秋田犬の里は、6月2日までの間に8万人を超える多くの方々にご来館いただきました。また、田村議員御紹介のアンケートは私も目を通しております。お客様の目線に立って、早急に改善します。これは小棚木議員の質問に答えたとおりであります。今の大館市役所は、クレームがついたからだめだということではなく、クレームこそまさに改善の気づきを教えてくれたきっかけとして捉えるように考えております。官民連携のかなめとして、駅前地区を一層盛り上げていきたいと考えております。リニューアルしている民間の投資の動きを見ていて、着実に駅前のにぎわいが戻りつつあります。それを、まち歩きのほうにも展開させていく必要があると考えております。コンビニの経営は、お客様の滞在時間と購入額が比例するというデータがあります。コンビニの経営に例えるのは適正ではないかもしれませんが、恐れずに経営するならば、大館での滞在時間がふえればふえるほど、消費額はふえていきます。その一つの拠点が確実にできつつある。そして、まち歩きのルートもより明確になってくると考えています。新しく、令和の時代の大館市役所ができ、和風の迎賓館としての桜櫓館、太鼓橋を渡り、洋風の迎賓館としての石田ローズガーデン、この一連の流れをまち歩きにも結びつけていきたいと考えております。また、議員御紹介のとおり、JR東日本が宣伝することはとても大きいことです。特に、日本の人口1億2,000万人のうち、JR東日本が管轄している鉄路がカバーしている人口は5,500万人から6,000万人と言われております。自主的に大館市がお金を出しているわけでもないのに宣伝してくれるようなパートナーは必要だと考えています。そうした意味において、ただ単に鉄路と陸路の結節点だけではなく、大館と外をつなぐエリアとして、そこから市内外へお客様がどんどん周遊してもらえるようなソフトもきちんとつくっていかなければなりません。

また、裏側にある小坂鉄道の跡地のほかにも、芝生広場や現在工事中の多目的広場におきましても、利活用させるさまざまなソフト事業を考える必要があります。愛犬マナー教室やしつけ方教室など、犬に関連する事業のほか、田村議員御提案のように、まずは市民の皆さんが「行ってみたい」「利用してみたい」「使ってみたい」と思えるような仕組みを検討しているところでもあります。なお、施設の運営方法につきましては、まずはノウハウを積み上げるとともにできるだけ早く民間を活用する方式にしていきたいと考えております。改めて申し上げます。田村議員御紹介の株式会社花善のリニューアルや、わっぱビルヂングがオープンし、民間の投資が非常に活発になってきております。このようなことをさらに加速化させるように実りある事業展開をできるだけスピード感を持って進めていきたいと考えております。田村議員御指摘のとおり、地元町内会などと十分に検討することに関しましては、過不足なく積極的に進めていくこと、地元の御理解と御協力を得ながら鋭意事業を進めていくことを改めてお約束申し上げます。

3点目、**十ノ瀬藤の郷**についてであります。5月中旬から6月上旬にかけ、昨年に比べ倍増となる2万人以上の来場者でにぎわったとうかがっております。私自身も、見ごろを迎えた5月末の土曜日、お昼前と記憶しておりますが、すごいにぎわいでした。ボランティアの方々が、山田方面への農道へ誘導してくれていましたので県道への路駐はありませんでした。旧軌道敷のほうにもとめていましたが、2万人ではなく、もっとすごいと思いました。私が見ているだけでも車が50~70台ありました。また、来場者は市内の人ではないと思いました。それは、市内の人だと「市長」と声をかけてくれるのですが、わからない人ばかりでした。やはり、あきた県議会だよりを見て来た方が多く、県南の方が多いとの情報もいただきました。ヒマワリだけではなく、花が持つ力はすごい改めてと思いました。これを、行政がやればよいという話にはしたくないと思います。先ほど、まちづくりは私ごとという機運を私も感じました。茂屋地区の方、山田地区の方の宝ができました。まさしく田代が誇る大館の宝になったと考えております。秋田花めぐり手帳については、県と次のような話をしています。トップセールスの効果もあり、夏祭り、紅葉の秋、温泉あるいはスキー等、夏・秋・冬はインバウンドのお客様に対応するメニューが充実してきました。今秋田のインバウンド観光に足りないのは、春です。この春を連携させるために花について共有しています。大館には桜があり、藤があり、バラがあります。これに男鹿のアジサイをつなげていこうということで、県と連携して花を前面に出す自治体のネットワークをつくって県と一緒にPRしようと考えています。もちろん、十ノ瀬藤の郷は、その中でもキラーコンテンツになり得る力が多分にあります。実際に海外に行って宣伝をすると、誰も大館、能代、仙北という見方はしません。それが、お祭りであったり、秋田犬であったり、温泉であったり、花であったり、それぞれのテーマでお客様は秋田に足を運ぼうと捉えてくれています。そのようなものをうまく使っていくこととあわせて、桜は残念ながら角館や弘前のほうが格段に有名ですが、今の大館は弘前から桜の指導をいただいております。

ます。仙北ともきちんと連携ができています。そのように花つながりで、それぞれの他市とつながっていき、観光周遊ルートをつくることもきちんと進めていることをあえて申し上げたいと思います。

4点目、**森林環境譲与税と林業成長産業化地域創出モデル事業**についてであります。今年度新たに導入された森林環境譲与税は、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保することを目的に創設されました。令和6年度から課税される国の森林環境税が、都道府県及び市町村へ今年度から前倒しで譲与されるものであります。武田議員が配付してくれました資料にありますとおり、私たちが思う以上に「木は切ったけれども、植林されていない」ということが顕著になってきています。林価の持っているものが農業と同じ構造で、余りにも零細過ぎて経営に適さないところが多いです。ここを過不足なく整備しないと「国の宝は山なり」という考えが実現できません。そのための制度であります。森林環境譲与税については、法令で用途が定められています。市町村では、間伐や担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用に充てなければならないとされております。本市におきましては、主に森林の適切な管理を行う森林経営管理制度、除間伐を行う森林整備、木質バイオマス利用の普及を図る森林資源の循環利用促進などに活用したいと考えております。森林経営管理制度の取り組みについては、まずは調査の対象となる私有林約1万2,000ヘクタールについて、おおむね20年で調査を完了させることとし、直近5年の意向調査地区の選定を終えたところであります。各地区については、大館市が管理する市有林の森林経営計画ときちんとマッチングさせ、集約化による効率的な施業が可能となる区域を主体に設定するとともに、地形や地理的条件等の地域特性も重視しながら優先順位を決めました。今年度は花岡町字繫沢と早口字平滝の2カ所、約350ヘクタールの意向調査から着手していきます。次に、林業成長産業化地域創出モデル事業については、森林資源の循環とともに、林業を軸とした地域産業の成長を図ることによる地域の活性化を目的に創設されたものです。平成29年度に全国16カ所の林業成長産業化地域の一つとして、大館市・北秋田市・上小阿仁村の2市1村を区域とした大館北秋田地域が選定されました。これを受け、2市1村のほか、森林組合・素材生産企業・苗木生産者・製材加工業者・木質バイオマス事業者・木材流通事業者など各分野の企業28社と、秋田県立大学木材高度加工研究所を学識経験者として迎え、大館北秋田地域林業成長産業化協議会を立ち上げたところであります。この協議会において、森林整備の推進、地域材利用の拡大、木質バイオマスの利用促進に向け、先進地の視察や林業講演会への参加、林業従事者の資格取得支援、地理情報システム（GIS）の活用等各種研修会の開催などを行っております。事業期間は平成29年度からの5年間で、毎年625万円の国補助のほか、2市1村の負担金により協議会を運営しているところでありますので御理解を賜りますようお願い申し上げます。

5点目、**扇田病院着服事件の進捗状況**についてであります。この質問につきましては、後ほど病院事業管理者からもお答え申し上げます。先般、刑事裁判について刑が確定したのは議員

御紹介のとおりであります。現在、進めております民事裁判の争点は、委託先業者の使用者責任についてであります。これは、司法に判断を委ねております。田村議員御指摘のとおり、訴訟相手の業者に対しては、現在も業務を発注しておりますが、司法の判断を待たずに、市が独断で現行契約の中途解約などのペナルティーを課すことは、対等な立場で交わされた契約の公正性を損なうおそれがあります。また、今後発注する業務について、現段階で指名除外などの措置をとることも法的根拠に欠けると顧問弁護士から御指導をいただいております。拙速に講ずるべきではないと考えており、最終的な判決を待つ適切な措置を講じていきたいと考えているところであります。裁判が長期化し、市民の皆様には御心配をおかけしていることは十分に承知しております。早期決着に向け力を注ぎ、被害金の全額回収に努めてまいりますので御理解をお願いいたします。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。(降壇)

○病院事業管理者(佐々木睦男君) 5点目、扇田病院着服事件の進捗状況についてお答えいたします。扇田病院の外来診療費着服事件の経過については、これまでも行政報告や厚生常任委員会、病院だよりへの記事掲載等により、速やかに公表するように努めてきたところであります。民事裁判は、昨年3月から本年6月まで、非公開の弁論準備手続が11回開かれ、原告側・被告側双方の主張と立証が繰り返され審理が続いております。次回は9月に予定されております。今後の見通しについては被告側の対応により審理の進み方が異なってきますことから、現段階では確かな見通しは申し上げられない状況でありますことを御理解いただきたいと思っております。今後も顧問弁護士と相談の上、早期解決を目指して全力を傾注してまいりますので御理解賜りますようお願いいたします。以上でございます。

○14番(田村儀光君) 議長、14番。

○議長(小畑 淳君) 14番。

○14番(田村儀光君) 再質問します。まず、扇田病院着服事件について、市長は、市民に被害金を全額回収するという約束をしています。今の病院事業管理者の答弁では、現段階では確かな見通しは言えないとのことですが、市長として、任期中に全額回収する方針なのか、それとも裁判が長引いて10年くらいかかるのか。もし、次期の市長が福原市長でなかった場合、次の市長へお願いするのか答弁をお願いします。次に、市民と語る会について、2期目の施政方針でいろいろな政策を全ての市民と協働で行ってほしい。少なくとも、大館市が行っている政策を皆がわかるような市民と語る会にしてほしいと思います。必ずしも市長が出席しなくても、副市長や総務部長が出席する形でもよいと思います。また、御成町一丁目の住民から「駅を改築するなら、駅前もあわせて整備してほしい。町並みを考えてほしい」と言われています。何回でも市民と語る会を開いて、駅ができる前に構想ができるようにして進めてほしいと思います。次に、十ノ瀬藤の郷について、県といろいろ話をしているようですが、あの通りは県道です。そのような面でも、県へ駐車帯を整備してもらおうなど働きかけてみてはどう



でしょうか。藤の郷の前の田んぼは、全部同じ地主の土地です。もしかすれば、田んぼをやめて駐車場にしてくれるかもしれません。可能ならば協力してもらいたと思っていますが市長の考えを伺いたと思います。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（小畑 淳君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） まず、扇田病院の裁判の件については、あくまでも司法に判断を委ねていることを御理解いただきたいと思っています。司法の門外漢ではありますが、10年もかかるような裁判ではないと思っています。ただし、この時点でどうなっているのかを言えないことも御理解いただきたいと思っています。次に、市民と語る会に関しては、必ず行うこととお約束します。既に田代地区でも行っております。メディアに取り上げられないと行っていないと言われることが非常に残念ですが、きちんと行っておりますのでさらに進めていくこととお約束します。次に、県道に関しては非常に有用な情報提供をいただいたと認識しております。私が藤の郷を見た翌週の5月末日に行われた北秋田地域振興局と本市の部長級との意見交換会において、十ノ瀬藤の郷の話題になりました。県にも今の状況をお伝えして、もし、住民の皆様の御理解がいただけるのであれば、どのような形で官と民の連携で進めていけるのかに関しても前向きに進めていきたいと考えております。

○議長（小畑 淳君） 以上で、本日の一般質問を終わります。

## 日程第2 議案等の付託

○議長（小畑 淳君） 日程第2、議案等の付託を行います。

議案等36件は、お手元に配付しております議案等付託表のとおり、それぞれ各委員会に付託いたします。

### 議案等付託表

番号	件名	付託委員会
議案 第63号	消費税率及び地方消費税率の引上げに伴う関係条例の整備に関する条例案	総財委
〃 第64号	大館市公園条例の一部を改正する条例案	建水委
〃 第65号	大館市立体育館に関する条例の一部を改正する条例案	教産委
〃 第66号	大館市花岡総合スポーツ公園に関する条例の一部を改正する条例案	〃

議案 第 67 号	大館市五色湖緑地公園に関する条例の一部を改正する条例案	教 産 委
〃 第 68 号	大館郷土博物館に関する条例の一部を改正する条例案	〃
〃 第 69 号	公益的法人等への職員の派遣等に関する条例の一部を改正する条例案	総 財 委
〃 第 70 号	大館市森林環境譲与税基金に関する条例案	教 産 委
〃 第 71 号	大館市過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例案	厚 生 委
〃 第 72 号	大館市介護保険条例の一部を改正する条例案	〃
〃 第 73 号	大館市火災予防条例の一部を改正する条例案	総 財 委
〃 第 74 号	大館市水道事業、工業用水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例案	建 水 委
〃 第 75 号	財産の取得について（情報系端末用パソコン132台）	総 財 委
〃 第 76 号	財産の取得について（除雪ドーザ（14 t 級） 1 台）	建 水 委
〃 第 77 号	財産の取得について（除雪ドーザ（11 t 級） 1 台）	〃
〃 第 78 号	令和元年度大館市一般会計補正予算（第 1 号）案	（ 分 割 ）
	第 1 条第 1 表 歳入歳出予算補正のうち、 歳入 全 部 歳出 第 1 款 議会費 第 2 款 総務費（ただし、第 1 項第 17 目・第 18 目・第 20 目及び第 2 項・第 3 項を除く） 第 9 款 消防費 第 3 条第 3 表 (1)・(2)地方債補正 ( 最 終 調 整 )	総 財 委
	第 1 条第 1 表 歳入歳出予算補正のうち、 歳出 第 2 款 総務費のうち、第 1 項第 17 目・第 18 目・第 20 目及び第 2 項・第 3 項 第 3 款 民生費 第 4 款 衛生費（ただし、第 1 項第 17 目を除く） 第 2 条第 2 表 債務負担行為補正のうち、一般廃棄物処理委託事業	厚 生 委

	第1条第1表 歳入歳出予算補正のうち、 歳出 第5款 労働費 第6款 農林水産業費 第7款 商工費 第10款 教育費 第2条第2表 債務負担行為補正のうち、グランドピアノ 更新事業	教 産 委
	第1条第1表 歳入歳出予算補正のうち、 歳出 第4款 衛生費のうち、第1項第17目 第8款 土木費	建 水 委
議案 第79号	令和元年度大館市国民健康保険特別会計補正予算（第1号） 案	厚 生 委
〃 第80号	令和元年度大館市介護保険特別会計補正予算（第1号）案	〃
〃 第81号	令和元年度大館市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号） 案	建 水 委
〃 第82号	令和元年度大館市都市計画事業特別会計補正予算（第1号） 案	〃
〃 第83号	令和元年度大館市財産区特別会計補正予算（第1号）案	総 財 委
〃 第84号	令和元年度大館市水道事業会計補正予算（第1号）案	建 水 委
〃 第85号	令和元年度大館市下水道事業会計補正予算（第1号）案	〃
〃 第86号	令和元年度大館市病院事業会計補正予算（第1号）案	厚 生 委
〃 第87号	財産の取得について（災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車 （Ⅱ型）1台）	総 財 委
〃 第88号	財産の取得について（消防ポンプ自動車（CD-I型）1 台）	〃
請願 第1号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出要請について	〃
陳情 第1号	水道事業へのコンセッション方式の導入に反対する陳情	建 水 委
〃 第2号	観光計画の見直しを求める陳情	教 産 委
〃 第3号	脱モータリゼーションを反映させた都市計画を求める陳情	建 水 委

陳情 第 4 号	新幹線誘致の取り組みを求める陳情	建 水 委
〃 第 5 号	教職員定数の改善と義務教育費の国庫負担割合を2分の1に復元することを求める意見書の提出要請について	教 産 委
〃 第 6 号	辺野古新基地建設の中止と、普天間基地の沖縄県外、国外への移転を民主主義及び日本国憲法に基づき公正に解決させるよう求める意見書の提出要請について	総 財 委
〃 第 7 号	外国人労働者受け入れ政策の中止を求める陳情	教 産 委
〃 第 8 号	「沖縄県民は先住民族」との国連の勧告を撤回させることを求める意見書の提出要請について	総 財 委
〃 第 9 号	米軍普天間飛行場の辺野古移設を促進するよう求める意見書の提出要請について	〃

○議長（小畑 淳君） 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の会議は、6月25日午後1時開議といたします。

本日はこれにて散会いたします。

午後2時38分 散 会